



# 滋賀県立大学 2019年度

## 講義概要(シラバス)

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

# 目 次

1110121	英語 A (活性化コース) (人文)	渡 寛法	前期	1
1110122	英語 B (活性化コース) (人文)	渡 寛法	後期	3
1110131	英語 A (活性化コース) (人文)	香山 恵美	前期	5
1110132	英語 B (活性化コース) (人文)	香山 恵美	後期	7
1110141	英語 A (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	9
1110142	英語 B (活性化コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	11
1110151	英語 A (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	前期	13
1110152	英語 B (活性化コース) (人文)	西澤 裕一	後期	15
1110161	英語 A (活性化コース) (人文)	関 初海	前期	17
1110162	英語 B (活性化コース) (人文)	関 初海	後期	19
1110331	英語 A (応用コース) (人文)	Graham Jones	前期	21
1110332	英語 B (応用コース) (人文)	Graham Jones	後期	23
1110341	英語 A (応用コース) (人文)	齊藤 倫子	前期	25
1110342	英語 B (応用コース) (人文)	齊藤 倫子	後期	27
1110351	英語 A (応用コース) (人文)	Ashley Stevens	前期	29
1110352	英語 B (応用コース) (人文)	Ashley Stevens	後期	31
1110361	英語 A (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	前期	33
1110362	英語 B (応用コース) (人文)	Gordon Maclaren	後期	35
1110371	英語 A (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	前期	37
1110372	英語 B (応用コース) (人文)	Karl Hedberg	後期	39
1110531	英語 A (充実コース) (人文)	西澤 裕一	前期	41
1110532	英語 B (充実コース) (人文)	西澤 裕一	後期	43
1110541	英語 A (充実コース) (人文)	真田 満	前期	45
1110542	英語 B (充実コース) (人文)	真田 満	後期	47
1110551	英語 A (充実コース) (人文)	Armando Duarte	前期	49
1110552	英語 B (充実コース) (人文)	坂本 輝世	後期	51
1110561	英語 A (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	前期	53
1110562	英語 B (充実コース) (人文)	佐久間 思帆	後期	55
1110571	英語 A (充実コース) (人文)	Graham Jones	前期	57
1110572	英語 B (充実コース) (人文)	Graham Jones	後期	59
1110741	英語 A (展開コース) (人文)	神田 眞喜子	前期	61
1110742	英語 B (展開コース) (人文)	神田 眞喜子	後期	63
1110751	英語 A (展開コース) (人文)	渡 寛法	前期	65
1110752	英語 B (展開コース) (人文)	渡 寛法	後期	67
1110761	英語 A (展開コース) (人文)	菰田 真由美	前期	69
1110762	英語 B (展開コース) (人文)	菰田 真由美	後期	71
1110771	英語 A (展開コース) (人文)	渡 寛法	前期	73
1110772	英語 B (展開コース) (人文)	渡 寛法	後期	75
1110781	英語 A (展開コース) (人文)	坂本 輝世	前期	77
1110782	英語 B (展開コース) (人文)	坂本 輝世	後期	79
1130090	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文a)	山本 洋紀	前期	81
1130100	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文b)	亀田 彰喜	前期	83
1130110	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文c)	山本 洋紀	前期	85
1130120	情報リテラシー (情報倫理を含む) (人文d)	山本 洋紀	前期	87
1130200	情報科学概論 (人文b) 亀田 彰喜	後期	89	
1130210	情報科学概論 (人文a) 山本 洋紀	後期	91	
1130220	情報科学概論 (人文c) 山本 洋紀	後期	93	
1130230	情報科学概論 (人文d) 亀田 彰喜	後期	95	
1150350	人間探求学 (人間関係) 学科教員	前期	97	
1150451	川の未来学 村上 修一	前期	99	
1150460	比較住居論 藤木 庸介	前期	101	
1150560	Model United States of America Benjamin John McCracken	前期	103	
1150570	Model United Nations Benjamin John McCracken	後期	105	
1201980	政治学 望月 詩史	前期	107	
1201990	政治学 (国際政治を含む) 望月 詩史	後期	109	
1203110	法学概論 (国際法を含む) 坂田 雅夫	前期	111	
1400300	カウンセリング論演習/ 松嶋 秀明	前期	113	
1400330	環琵琶湖文化論実習 (人間関係) 学科教員	通年	115	
1400510	教育学概論 杉浦 由香里	前期	117	
1400520	教育観察実習 原 未来	前期実習	119	
1400530	教育心理学 黒田 真由美	前期	121	
1400540	教育制度論 杉浦 由香里	後期	123	
1400555	教育方法論 木村 裕	前期	125	
1400610	形成論演習 木村 裕	通年	127	
1400650	現代ジャーナリズム論 関根 英爾	後期	129	
1400670	現代社会福祉論 中村 好孝	後期	131	
1400685	国際社会論 大野 光明	後期	133	
1400710	現場心理学 松嶋 秀明	前期	135	
1400840	行動論演習 松嶋 秀明	通年	137	
1400920	産業心理学 谷口 友梨	前期	139	
1400980	質的データ解析論 武田 俊輔	後期	141	
1401025	労働・社会政策論 橋口 昌治	後期	143	
1401040	社会学演習 丸山 真央	通年	145	
1401050	社会学概論 武田 俊輔	前期	147	
1401110	社会精神医学 久保田 泰考	前期集中	149	

1401125	地域社会調査実習	塚本 礼仁	通年	...	151
1401130	社会調査方法論	大野 光明	後期	...	153
1401140	社会調査論	中井 治郎	前期	...	155
1401180	社会変動論	丸山 真央	後期	...	157
1401190	社会問題の社会学	中村 好孝	前期	...	159
1401340	生涯学習論	原 未来	前期	...	161
1401380	消費生活論	小牧 美江	後期	...	163
1401520	心理・発達・行動学実験演習	松嶋 秀明	通年	...	165
1401540	心理学基礎	後藤 崇志	前期	...	167
1401560	生活経営論	山田 歩	後期	...	169
1401575	生活と教育	原 未来	後期	...	171
1401720	政治経済学	梅澤 直樹	後期	...	173
1401822	卒業研究・論文	(人間関係) 学科教員	前期研究	...	175
1401824	卒業研究・論文	(人間関係) 学科教員	後期研究	...	177
1402240	哲学概論A	鞍田 崇	前期集中	...	179
1402250	哲学概論B	鈴木 真	前期集中	...	181
1402360	統計学基礎	澤山 郁夫	前期	...	183
1402400	日本社会論	武田 俊輔	後期	...	185
1402460	人間関係論演習	学科教員	通年	...	187
1402471	人間関係論演習	学科教員	前期	...	189
1402475	人間関係論演習	学科教員	後期	...	191
1402481	人間関係論基礎演習	学科教員	後期	...	193
1402501	人間形成論A	木村 裕	前期	...	195
1402530	人間行動論	細馬 宏通	後期集中	...	197
1402540	人間文化論A	藤木 庸介	前期	...	199
1402550	人間文化論B	亀井 若菜	後期	...	201
1402560	人間文化論C	宮本 雅子	後期	...	203
1402609	発達支援論(人間関係)	原 未来	後期	...	205
1402615	発達心理学	上野 有理	前期	...	207
1402620	発達心理学 /	水野 友有	後期	...	209
1402690	比較認知発達論	上野 有理	後期	...	211
1402950	文化社会学	武田 俊輔	前期	...	213
1403000	マーケティング論	山田 歩	後期	...	215
1403100	量的データ解析論	丸山 真央	前期	...	217
1403110	量的データ解析論	岡本 裕介	後期集中	...	219
1403190	臨床心理学	松嶋 秀明	後期	...	221
1403240	家族論	村上 潔	前期	...	223
1403260	パーソナリティ心理学	後藤 崇志	後期	...	225
1600251	教育課程論	木村 裕	後期	...	227
1600390	道德教育論	福井 雅英	前期	...	229

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

#### 到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

#### 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK) を持ってきてください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	渡 寛法
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

#### 到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

#### 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

#### 到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。  
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み  
30% 授業内の課題  
40% 到達度確認テスト (2回)

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介
第2回	Unit 1	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 2	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 3	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 4	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 5	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 6	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 7	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 8	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 9	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 10	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
担当者から一言		

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	香山 恵美
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

#### 到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。  
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み  
30% 授業内の課題  
40% 到達度確認テスト (2回)

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。  
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。  
毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。  
期末テストの他に14、15回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

#### 到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)  
5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口優美子、柳田真知子	金星堂	978-4-7647-4089-1
2				
3				

必ず購入のこと。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

#### 前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

#### 履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文 )					担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習
ナンバリング番号	101ENG101						

授業計画							
------	--	--	--	--	--	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認
第2回	Unit1	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit1	Part2, 3, 6
第4回	Unit2	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit2	Part2, 3, 6
第6回	Unit3	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit3	Part2, 3, 6
第8回	Unit4	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit4	Part2, 3, 6
第10回	Unit5	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit5	Part2, 3, 6
第12回	Unit6	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit6	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit1～6の復習
第15回	暗唱テスト	Unit1～6の復習

**担当者から一言**

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為 ( 私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等 ) をする者の受講は認めません。

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。  
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。  
毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。  
期末テストの他に14、15回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

#### 到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)  
5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口優美子、柳田真知子	金星堂	978-4-7647-4089-1
2				
3				

前期と教科書は同じです。必ず購入のこと。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

#### 前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

#### 履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	基礎事項の確認
第2回	Unit7	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit7	Part2, 3, 6
第4回	Unit8	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit8	Part2, 3, 6
第6回	Unit9	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit9	Part2, 3, 6
第8回	Unit10	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit10	Part2, 3, 6
第10回	Unit11	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit11	Part2, 3, 6
第12回	Unit12	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit12	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit7~12の復習
第15回	暗唱テスト	Unit7~12の復習

担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

#### 到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度 (授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。  
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。  
予習をしっかりとしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
2	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身!	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736
3	ローマの休日		電波実験社	9784864900133

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格



講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画 (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

#### 到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度 (授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。  
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。  
予習をしっかりとっていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
2	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身!	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736
3	ローマの休日		電波実験社	9784864900133

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画 (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

#### 授業概要

TOEIC形式の問題を正確に解く力を身につける。  
TOEICのリスニング音声や読解問題を活用し、ライティング・スピーキング能力といった、英語発信能力をきたえる。

#### 到達目標

- (1) TOEICの語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について毎回の授業冒頭での小テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(20%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口 優美子他	金星堂	9784764740891
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	関 初海
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

#### 授業概要

TOEIC形式の問題を正確に解く力を身につける。  
TOEICのリスニング音声や読解問題を活用し、ライティング・スピーキング能力といった、英語発信能力をきたえる。

#### 到達目標

- (1) TOEICの語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について毎回の授業冒頭での小テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(20%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口 優美子他	金星堂	9784764740891
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Graham Jones
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) start thinking about English learning as a lifelong activity.

#### 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	50	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外		

#### 授業外学習

One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Graham Jones
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) continue thinking about English learning as a lifelong activity.

#### 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	50	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外		

#### 授業外学習

One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	齊藤 倫子
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

#### 到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.
レポート課題	25	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each
上記以外	50	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

#### 前提学力等

#### 履修資格

<b>講義名</b>	英語 A (応用コース) (人文 )						<b>担当教員</b>	齊藤 倫子
<b>講義コード</b>	1110341	<b>単位数</b>	1	<b>開講期</b>	前期	<b>授業種別</b>	演習	
<b>ナンバリング番号</b>	101ENG103							

**授業計画**

回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	Week 14	Final presentations.
第15回	Week 15	Final presentations.

**担当者から一言**

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	齊藤 倫子
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

#### 到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year.
レポート課題	25	Homework: There will be writing and speaking homework on various topics.
上記以外	50	Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year.

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)	担当教員	齊藤 倫子				
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習
ナンバリング番号	101ENG104						

### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Homework: Begin writing midterm paper.
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Final presentation preparation. Homework: Work on final presentation.
第14回	Week 14	Final presentation preparation and practice presentations. Homework: Continue working on final.
第15回	Week 15	Final presentations.

### 担当者から一言

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

#### 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.  
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

#### 授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.
第2回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.
第3回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.
第4回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第5回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第6回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher corrects pronunciation of students' writing.
第7回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.
第8回	Shopping	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第11回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第12回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第13回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.
担当者から一言		

講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

#### 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.  
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

#### 授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World 2	Stevens	3C English	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)					担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習
ナンバリング番号	101ENG104						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.
第2回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live. Teacher checks students have begun their writing.
第3回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live. Teacher checks students have begun their writing.
第4回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第5回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第6回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies. Teacher corrects pronunciation of students' writing.
第7回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies. Teacher corrects pronunciation of students' writing.
第8回	Life experiences	Focusing on the functional language used in real life situations when the things we have done. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	Jobs and the workp lace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the workp lace.
第11回	Jobs and the workp lace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the workp lace.
第12回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on superlatives.
第13回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on superlatives.
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.
担当者から一言		

講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Gordon Maclaren
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3rd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times. In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the instructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

#### 到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

#### 授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total) Pairs rewrite 75-90% of a 'new' scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Gordon Maclaren
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

#### 到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

#### 授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars [New Version]		(Drama Works, 2009)	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (応用コース) (人文 )						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

#### 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

#### 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking  
25% Mid-term Writing test.  
25% Vocabulary Quizzes

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English Publications	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	英語 B (応用コース) (人文 )						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

#### 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

#### 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking  
25% Mid-term Writing test.  
25% Vocabulary Quizzes

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらにそれらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

#### 到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含まれます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	TOEICテスト英単語Core Core 1200	小川慶	テイエス企画	488784204x
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。  
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

#### 到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含まれます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	TOEICテスト英単語Core Core 1200	小川慶	テイエス企画	488784204x
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし

#### 履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。  
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またビデオ教材を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において、英語を音読し、発言することで弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

#### 到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。  
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。  
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。  
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。  
 正しい発音を身につける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 に関し、2回小テストを行い、評価の40%とする。 到達目標 と に関しては、授業での発表をもとに、評価の20%とする。この20%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。  
 30分以上の遅刻は認めない。  
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

#### 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。  
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	World English 2	Kristin L. Johannsen他	Cengage	9781285848709
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

#### 前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

#### 履修資格





講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。また、正確な英文法に注意しながら、論理的な英語を書く力を養う。英語を書くだけでなく、自分の考えを口頭で発表し、他学生と議論する能力も培う。

#### 到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。  
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。  
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。  
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。  
 正しい発音を身につける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 に関し、2回小テストを行い、評価の40%とする。 到達目標 と に関しては、授業での発表をもとに、評価の20%とする。この20%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。  
 30分以上の遅刻は認めない。  
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

#### 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。  
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	World English 2	Kristin L. Johannsen他	Cengage	9781285848709
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

#### 前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

#### 履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction Unit 7, part 1	英語IIIAで学んだことの復習 リーディング・パッセージの読解
第2回	Unit 7, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第3回	Unit 8, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第4回	Unit 8, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第5回	Unit 9, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第6回	Unit 9, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第7回	1st quiz TED Talks	第1回小テスト TED教材を使ったリスニング練習
第8回	Unit 10, part 1	小テストの講評 宿題の解答と解説
第9回	Unit 10, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第10回	Unit 11, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第11回	Unit 11, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第12回	Unit 12, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第13回	2nd Quiz TED Talks	第2回小テスト TED教材を使ったリスニング練習
第14回	Unit 12, part 2	小テストの講評 宿題の解答と解説
第15回	Recapitulation	英語IIIBで学んだことのまとめ
担当者から一言		
英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。		

講義名	英語 A (充実コース) (人文 )						担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

This 4 skills class will introduce various topics about culture and communication every week. Students will listen to conversations, watch videos, and read and write about different topics. Students will be graded on their speaking and writing skills.

#### 到達目標

Every week we will try to complete 1 chapter in the textbook. If we don't finish in class, students should complete those activities as homework.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30%	Attendance - Please come to class every week. 1 absence = -2% from the final score.
レポート課題	35%	Writing Homework - Students will respond to some question related to the class topic.
上記以外	35%	Speaking Homework - Students will record a speech related to the class topic.

Please submit your homework on time. Any late homework will receive a penalty of 15 points.

#### 授業外学習

This class does not have a midterm or a final examination.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Finding Connections	Todd Rucynski		978-476-474-0761
2				
3				

Please buy the textbook as soon as possible.

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

この授業は、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を正確に読み取る力(リーディング)、理解し考えたことを英語で表現する力(ライティング)、口頭での英語発表のやり取りを行う力(スピーキング+リスニング)を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。

#### 到達目標

- (1) 自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける
- (2) 口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける
- (3) 自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を正確に読み取る力を身につける

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標(1)について、中間および最終発表によって評価(25%) 到達目標(2)について、中間および最終発表によって評価(25%) 到達目標(1)(2)(3)について、毎週の課題とクラスでの取り組みによって評価(50%)

正当な理由がなく全クラスの1/3以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

このクラスは、授業外での学習(課題提出)の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロジェクト発信型英語1	鈴木佑治	南雲堂	9784523177357
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくる。辞書は、原則、紙の辞書が電子辞書を用意してください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。  
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。  
毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。  
期末テストの他に14、15回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

#### 到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)  
5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE	番場直之、小山克明	金星堂	978-4-7647-4090-7
2				
3				

必ず購入のこと。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

#### 前提学力等

3回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

#### 履修資格





講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。  
英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。  
毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。  
期末テストの他に14、15回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

#### 到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)  
5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	978-4-7647-4090-7	番場直之、小山克明	金星堂	978-4-7647-4090-7
2				
3				

前期と教科書は同じです。必ず購入のこと。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

#### 前提学力等

3回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

#### 履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文 )							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

**授業計画**

回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	基礎事項の確認
第2回	Unit7	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit7	Part2, 3, 6
第4回	Unit8	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit8	Part2, 3, 6
第6回	Unit9	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit9	Part2, 3, 6
第8回	Unit10	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit10	Part2, 3, 6
第10回	Unit11	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit11	Part2, 3, 6
第12回	Unit12	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit12	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit7～12の復習
第15回	暗唱テスト	Unit7～12の復習

**担当者から一言**

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語 A (充実コース) (人文 )						担当教員	Graham Jones
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

#### 授業概要

This social studies themed course will build on the speaking, listening, writing and reading skills of students, and further develop their vocabulary. In class, the students will work in pairs and small groups. Students will also practise a number of self-study techniques.

#### 到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.  
 Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.  
 Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term listening/speaking test
レポート課題	50	Mid-term reading/writing test
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	978-1-61352-519-7
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (充実コース) (人文 )						担当教員	Graham Jones
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

#### 授業概要

This social studies themed course will build on the speaking, listening, writing and reading skills of students, and further develop their vocabulary. In class, the students will work in pairs and small groups. Students will also practise a number of self-study techniques.

#### 到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.  
 Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.  
 Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term listening/speaking test
レポート課題	50	Mid-term reading/writing test
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	978-1-61352-519-7
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文 )						担当教員	Graham Jones
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 8	Juku culture
第2回	Unit 9	Studying abroad
第3回	Unit 9	Studying abroad
第4回	Unit 10	Cell phone etiquette in public places
第5回	Unit 10	Cell phone etiquette in public places
第6回	Unit 11	Vending machines
第7回	Unit 11	Vending machines
第8回	Unit 12	Robotics research
第9回	Unit 12	Robotics research
第10回	Unit 13	Manga
第11回	Unit 13	Manga
第12回	Unit 14	Karaoke
第13回	Unit 14	Karaoke
第14回	Unit 15	Japanese gardens
第15回	Unit 15	Japanese gardens
担当者から一言		

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	神田 眞喜子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

本授業では、4技能を統合的に活用し、特にライティング能力の向上に重点を置きます。パラグラフライティングから論理的な文章が書けることを目標とします。パラグラフライティングに必要な文法や表現を学習します。また、リスニングと音読を通してパラグラフの構成についても学習します。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげる活動もします。

#### 到達目標

- (1) 論理的なパラグラフを書くことができる。
- (2) 語彙力や文法力を向上させる。
- (3) リスニング力を向上させる。
- (4) 積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)(2)(3)について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(1)(2)について、エッセーテストを2回行い、40%として評価。 到達目標(2)(3)(4)について、指示した活動や課題で20%として評価。

#### 授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Smart Writing	Miyako Nakaya他	SEIBIDO	978-4-7919-6032-3
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文 )						担当教員	神田 真喜子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1 What is a Paragraph	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第3回	Chapter 1 What is a Paragraph	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第4回	Chapter 2 Narration	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第5回	Chapter 2 Narration	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第6回	Chapter 3 Process	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第7回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第8回	エッセーを書く ( 1 )	与えられたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。
第9回	Chapter 4 Description of Feelings	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第10回	Chapter 4 Description of Feelings	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第11回	Chapter 5 Description of People	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第12回	Chapter 6 Description of Places & Locations	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第13回	Chapter 7 Definition	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第14回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第15回	エッセーを書く ( 2 )	与えられたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。

担当者から一言

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	神田 眞喜子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

本授業では、4技能を統合的に活用し、特にライティング能力の向上に重点を置きます。パラグラフライティングから論理的な文章が書けることを目標とします。パラグラフライティングに必要な文法や表現を学習します。また、リスニングと音読を通してパラグラフの構成についても学習します。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげる活動もします。

#### 到達目標

- (1) 論理的なパラグラフを書くことができる。
- (2) 語彙力や文法力を向上させる。
- (3) リスニング力を向上させる。
- (4) 積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標 (1) (2) (3) について、期末試験で30%として評価。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標 (1) (2) について、エッセーテストを2回行い、40%として評価。 到達目標 (2) (3) (4) について、指示した活動や課題で20%として評価。 到達目標 (2) (3) についてTOEICのスコアで10%として評価。

#### 授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Smart Writing	Miyako Nakaya他	SEIBIDO	978-4-7919-6032-3
2				
3				

辞書を必ず持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文 )						担当教員	神田 眞喜子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要、方針、課題についての説明。
第2回	Chapter 8 Comparison & Contrast	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第3回	Chapter 8 Comparison & Contrast	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第4回	Chapter 9 Cause & Effect	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第5回	Chapter 9 Cause & Effect	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第6回	Chapter 10 Problems & Solutions	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第7回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第8回	エッセーを書く ( 1 )	与えられたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。
第9回	Chapter 11 Your Opinion - Agree	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第10回	Chapter 12 Your Opinion - Disagree	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第11回	Chapter 13 Data Analysis	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第12回	Chapter 13 Data Analysis	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第13回	Chapter 14 Email Writing	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第14回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第15回	エッセーを書く ( 2 )	与えられたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。

担当者から一言

--

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	渡 寛法
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

#### 到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

#### 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	978-4-906033-53-9
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	渡 寛法
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

#### 到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

#### 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	978-4-906033-53-9
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	菰田 真由美
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

この授業では、外国人が実際に体験する日本文化の現地レポートと、様々な国の出身者が自国文化と日本文化の違いを語るディスカッションの映像を見て、世界各国の多様な文化背景を持つスピーカーの考えに触れ、日本文化を再認識し、世界へ向けて英語で発信する力を養う。

#### 到達目標

- (1) 語彙力を増強する。
- (2) 英語母語話者および非母語話者による英語を聞き取り、ペアまたはグループ・ワークによって自分の考えを述べる。
- (3) 日本文化を紹介する映像を視聴し、その内容を理解する。
- (4) 日本事象について英語で発信することができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	到達目標(4)については、レポート課題によって評価する
上記以外	60%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(30%)、到達目標(2)(3)については、授業中の活動への積極的な参加(30%)によって評価する。

授業を3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。授業中の携帯電話の使用は認めない。

#### 授業外学習

毎週の授業について、web動画による視聴および音読を行い、復習をすること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Discovering Cool Japan	Akiko Tusuda他	成美堂	978-4-7919-7187-9
2				
3				

英和辞書を持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文)							担当教員	菰田 真由美
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

**授業計画**

回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明
第2回	Unit1: Long-Established Businesses	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第3回	Unit2: Uniforms	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第4回	Unit3: Volunteer Work	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第5回	Unit4: High-Tech Living (Automobiles)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第6回	Unit5: Japanese Tableware	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第7回	Unit6: Homemakers of Japan	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第8回	Unit7: Seafood	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第9回	Unit8: Voice Actors	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第10回	Unit9: Japanized Foreign Dishes	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第11回	Unit10: Bags	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第12回	Unit11: Senior Citizens (Medical Checkups)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第13回	Unit12: Money	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第14回	Unit13: Monkeys	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第15回	復習	前期学習内容の確認と復習

**担当者から一言**

授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	菟田 真由美
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

この授業では、NHK World Japanの海外向けニュース番組NEWSLINEを視聴し、国内のニュースを英語で理解し、さらに発信する力を養成する。

#### 到達目標

- (1)時事問題に関する語彙および身近な日本語に対する英語表現を習得する。
- (2)ニュースを聞いて正しくその内容を理解することができる。
- (3)正しい発音とイントネーションを身に付け、ニュースを音読することができる。
- (4)ニュースの内容について自分の意見を英語で述べるができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	(4)については、発表及びワークシートの提出で評価する。
上記以外	60%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(30%)、到達目標(2)(3)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。さらに後期に受験するTOEICスコア(10%)を組み込む。

授業を3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。授業中は携帯電話等の通信機器の使用は認めない。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となる。

#### 授業外学習

毎週の授業後、各ユニットの映像をオンラインで視聴し、リスニング及びシャドウイング練習を行うこと。さらに、毎週実施する小テストに備えて語彙を覚えること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NHK Newsline2	Tatshuro Yamazaki	金星堂	978-4-7647-4072-3
2				
3				

英和辞書を持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	渡 寛法
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

#### 到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

#### 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	978-4-906033-53-9
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	渡 寛法
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

#### 到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標 (1) に関しては、期末試験で評価します (60%)。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し (20%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (20%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

#### 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	978-4-906033-53-9
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	英語 A (展開コース) (人文 )						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

#### 授業概要

この授業は、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を正確に読み取る力(リーディング)、理解し考えたことを英語で表現する力(ライティング)、口頭での英語発表のやり取りを行う力(スピーキング+リスニング)を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。

#### 到達目標

- (1) 自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける
- (2) 口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける
- (3) 自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を正確に読み取る力を身につける

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標(1)について、中間および最終発表によって評価(25%) 到達目標(2)について、中間および最終発表によって評価(25%) 到達目標(1)(2)(3)について、毎週の課題とクラスでの取り組みによって評価(50%)

正当な理由がなく全クラスの1/3以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

このクラスは、授業外での学習(課題提出)の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロジェクト発信型英語1	鈴木佑治	南雲堂	9784523177357
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくる。辞書は、原則、紙の辞書か電子辞書を用意してください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

#### 授業概要

この授業は、前期に引き続き、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を精確に読み取る力(リーディング)、理解し考えたことを英語で表現する力(ライティング)、口頭での英語発表のやり取りを行う力(スピーキング+リスニング)を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。

#### 到達目標

- (1) 自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける
- (2) 口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける
- (3) 自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を精確に読み取る力を身につける

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標(1)について、中間および最終発表によって評価(15%) 到達目標(2)について、中間および最終発表によって評価(25%) 到達目標(1)(2)(3)について、毎週の課題とクラスでの取り組みによって評価(50%)

正当な理由がなく全クラスの1/3以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

このクラスは、授業外での学習(課題提出)の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロジェクト発信型英語1	鈴木佑治	南雲堂	9784523177357
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくる。辞書は、原則、紙の辞書か電子辞書を用意してください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

後期から初めてこのクラスを履修する場合は、前期の内容について説明しますので、テキストのUnit 1~15をよく読んで上で、最初の授業前に面談の予約をしてください。

#### 履修資格



講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

#### 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

#### 到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

#### 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101INF102							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理（1）	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理（2）	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成（1）	基本操作
第8回	WORDによる文書作成（2）	書式
第9回	WORDによる文書作成（3）	表
第10回	WORDによる文書作成（4）	図
第11回	Excelによる表計算（1）	基本操作
第12回	Excelによる表計算（2）	書式
第13回	Excelによる表計算（3）	関数
第14回	Excelによる表計算（4）	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成

担当者から一言

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	1011NF102							

#### 授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

#### 到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。  
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても取得すること。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

#### 履修資格



講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

#### 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

#### 到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

#### 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101INF102							

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理（1）	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理（2）	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成（1）	基本操作
第8回	WORDによる文書作成（2）	書式
第9回	WORDによる文書作成（3）	表
第10回	WORDによる文書作成（4）	図
第11回	Excelによる表計算（1）	基本操作
第12回	Excelによる表計算（2）	書式
第13回	Excelによる表計算（3）	関数
第14回	Excelによる表計算（4）	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成
担当者から一言		

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

#### 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

#### 到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

#### 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	情報科学概論(人文b)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

#### 履修資格

講義名	情報科学概論(人文b)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダ作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ
担当者から一言		

講義名	情報科学概論(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。  
(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

#### 授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

#### 履修資格



講義名	情報科学概論(人文c)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。  
(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

#### 授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

#### 履修資格



講義名	情報科学概論（人文c）						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	1011NF101							

### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ2乗値 統計検定
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習

担当者から一言

担当者から一言
---------

講義名	情報科学概論(人文d)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	1011NF101							

#### 授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

#### 到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

#### 履修資格

講義名	情報科学概論(人文d)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダ作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ
担当者から一言		

講義名	人間探求学(人間関係)						担当教員	学科教員/松嶋 秀明/上野 有理/ 中村 好孝/丸山 真央/木村 裕/ 杉浦 由香里/原 未来/大野 光明/
講義コード	1150350	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	101HUM101							

#### 授業概要

学生自らが人間関係学科での学びを探究し、新しい視点を発想・発見することを支援する。  
対話型の少人数学習の機会も設定し、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援する。

#### 到達目標

自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	リアクションペーパー・小テスト(50%) レジュメ作成・ディスカッションへの参加・レポート(50%)

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストについては、講義中に指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書については、講義中に指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	川の未来学						担当教員	村上 修一
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

本科目は、専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる、川の問題をとりあげる。まず、国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に、川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で、川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

#### 到達目標

- (1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
- (2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
- (3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標 (1) : ワークシート1 (30%) 到達目標 (2) : ワークシート2 (30%) 到達目標 (3) : ワークシート3 (40%)

ワークシート1, 2, 3は、それぞれ第5, 10, 14回の授業時間内に履修生が記述し、回収される。第6, 11, 15回に解説が行われ、履修生は理解を深める。

#### 授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第十堰日誌	姫野雅義	七つ森書館	978-4822811426
2	吉野川住民投票 市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922
3	再帰的近代の政治社会学 吉野川可動堰問題と民主主義の実験	久保田滋 他	ミネルヴァ書房	978-4623050826

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	川の未来学						担当教員	村上 修一
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	あなたにとって川とは？	川との関わりを再認識し、川の未来を考えることの重要性を意識するようになる。
第2回	川の未来像を決める5W1H	国内における川の未来像の決め方について基本を理解する。
第3回	川の未来像を決める最初の一步	河川整備基本方針の内容を理解する。
第4回	川の未来像を決める具体的な内容とは？	河川整備計画の内容を理解する。
第5回	ワークシート1	国内における川の未来像の決め方について理解したことを書いてみる。
第6回	ワークシート1の解説	国内における川の未来像の決め方について理解を深める。
第7回	これだけは変えられない？	川の未来像を決める二重構造 - 河川整備基本方針と河川整備計画との間に存在する問題点を理解する。
第8回	川は「溝」なのか？	河道主義にもとづく川の未来像の決め方について現状と問題点を理解する。
第9回	川の未来像を決める「みんな」とは？	流域委員会の現状と問題点を理解する。
第10回	ワークシート2	川の未来像の決め方における問題点を特定し書いてみる。
第11回	ワークシート2の解説	川の未来像の決め方における問題点について理解を深める。
第12回	国内の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか、新たな方向を示す国内の事例について理解しヒントを得る。
第13回	海外の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか、新たな方向を示す海外の事例について理解しヒントを得る。
第14回	ワークシート3	川の未来像の決め方に対して改善策を案出し書いてみる。
第15回	ワークシート3の解説	川の未来像の決め方に対する改善策について理解を深める。
担当者から一言		

講義名	比較住居論						担当教員	藤木 庸介
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	101HUM1761, 33RED121, 135LAH206							

#### 授業概要

世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。

#### 到達目標

- (1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。
- (2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。
- (3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に挙げた(1)(2)(3)の内容を包含した小テストを2回行い評価する。成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。

やむを得ない事由により小テストを欠席する場合には、必ず事前に申し出ること。  
また、当日の急病等によって事前の申し出ができて欠席した場合には、病状に関する診断書を提出すること。  
上記以外により小テストを欠席した者は、単位取得を認めない。

#### 授業外学習

教科書、並びに授業で配布されるプリントを復読することが望ましい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいが見つたえる世界の暮らし	藤木庸介	世界思想社	ISBN978-4-7907-1689-1
2				
3				

教科書は第4回目の授業から使用する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	Model United States of America						担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America ( "USA " ) and its unique form of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a senator from one of the 50 states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from the USA.

#### 到達目標

(1) Students will learn about US history and how it impacts the current political environment. (2) Students will learn about the US governmental system and the role political parties play in it. (3) Students will learn about current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their experience.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

#### 授業外学習

Students will need to be aware of current events in the US. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	Model United States of America						担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Course overview
第2回	Basic USA History	Lecture on US history
第3回	US Government I	Lecture on the US governmental system
第4回	US Government II	Lecture on the US governmental system
第5回	Seminar I	Group work - Students will be divided into states and assigned political parties and committees
第6回	Political Parties	Lecture on US political parties
第7回	Seminar II	Group work - Students prepare for presentations on US states and issue presentations
第8回	State Presentations I	Students present on their respective states
第9回	State Presentations II	Students present on their respective states
第10回	Seminar III	Group work - Students prepare for issue presentations
第11回	Issue and disucssion I	Students present and discuss issue in mock debate
第12回	Issue and discussion II	Students present and discuss issue in mock debate
第13回	Issue and discussion III	Students present and discuss issue in mock debate
第14回	Issue and discussion IV	Students present and discuss issue in mock debate
第15回	Review	Course review and essay preparation workshop

担当者から一言
Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	Model United Nations						担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.

#### 到達目標

(1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parliamentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate in order to reach a solution to a problem.

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their experience.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for participation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to actively participate will cause grades to be reduced.

#### 授業外学習

Students will need to be aware of current events in the world. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	Model United Nations							担当教員	Benjamin John McCracken
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Course overview
第2回	History of the UN	Introduction to the UN and its history
第3回	Parliamentary Procedure	Introduction to parliamentary procedure and Robert's Rules of Order
第4回	Simulation	Practice simulation
第5回	Seminar I	Group work - Students will be divided into countries and assigned committees
第6回	Seminar II	Lecture on committees. Group work - Students prepare for country presentations
第7回	Seminar III	Group work - Students prepare for country presentations
第8回	Country Presentations I	Students present on their respective countries
第9回	Country Presentations II	Students present on their respective countries
第10回	Seminar IV	Group work - Students prepare for issue presentations and discussion
第11回	Issue I	Students present and discuss issue in mock debate
第12回	Issue II	Students present and discuss issue in mock debate
第13回	Issue III	Students present and discuss issue in mock debate
第14回	Issue IV	Students present and discuss issue in mock debate
第15回	Review	Course review and essay workshop
担当者から一言		
Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.		

講義名	政治学						担当教員	望月 詩史
講義コード	1201980	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	212PEL301, 235LAH304							

#### 授業概要

本講義では「政治学の世界」をテーマに、「政治」とは何であり、「政治学」とはどのような学問であるのかについて考えていきたい。そして政治学の各分野を取り上げながら、政治現象をどのような観点から分析しているのかについて詳しく見ていく。

政治というと、議員や議事を思い浮かべる人が多い。確かに政治における重要なアクターであることは事実だが、決してそれらの専有物ではない。好むと好まざるとに関わらず、政治は私たちの日常生活と密接不可分の関係にある。そこで政治に係わる時事問題も積極的に取り上げる予定である。

政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。

本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

#### 到達目標

- (1) 「政治」、「政治学」とはどのような現象、学問であるのかを理解することができる。
- (2) 政治現象に対する問題意識を持つことができる。
- (3) 過去と未来への視座を含みながら現在を考えることができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)(2)(3)について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	コメントペーパーの内容に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見」をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。

#### 授業外学習

- (1) 授業内容を配布レジュメを読んで復習すること。
- (2) 新聞やニュースに目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	政治学入門	阿部齊	岩波書店	978-4000260015
2	政治学への道案内	高島通敏	講談社	978-4062921107
3	政治学をつかむ	苅部直ほか	有斐閣	978-4641177154

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	政治学（国際政治を含む）						担当教員	望月 詩史
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	212PEL305, 235LAH305							

#### 授業概要

本講義では、政治思想と国際政治を取り上げる。  
 政治思想では、古代から近代までの各時代を代表する思想家や知識人に焦点を当てながら、主要な政治思想を取り上げる。「主義」という政治概念が頻りに登場するが、できる限り具体的な中身を明らかにしていきたい。なぜならば、その意味内容が時代ごとに変化するのはもちろん、同時代においても相違が見られるからである。  
 国際政治では、国内政治との共通点・相違点について考えていきたい。特に後者を明らかにするために、国際政治の成り立ち（歴史）、国際社会における政治現象を分析する枠組み、そして今日的課題（テロリズム、核、環境問題など）を取り上げる。  
 これらのテーマの理解度を高めるには、具体的な政治現象と関連付けて考えることが望ましい。したがって、政治に係わる時事問題も取り上げる予定である。  
 政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。  
 本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

#### 到達目標

- (1) 現在の価値観を前提とせず歴史的に政治思想を理解することができる。
- (2) 国際政治と国内政治の共通点・相違点を理解することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)(2)について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	コメントペーパーの「内容」に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見」をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。

#### 授業外学習

- (1) 授業内容を配布レジュメを読んで復習すること。
- (2) 新聞やニュース等に毎日目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国際政治学をつかむ 新版	村田晃嗣ほか	有斐閣	978-4641177222
2	西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	978-4641220010
3	近代日本思想案内	鹿野政直	岩波書店	978-4003500187

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	政治学（国際政治を含む）						担当教員	望月 詩史
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	212PEL305, 235LAH305							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	政治思想・国際政治の世界
第2回	古代・中世の政治思想	民主政と君主政、政治と宗教の一体化
第3回	近代の政治思想	国家主権、社会契約説
第4回	近代の政治思想	功利主義、自由主義、保守主義
第5回	近代の政治思想	民主主義、社会主義・共産主義
第6回	近代の政治思想	大衆社会とファシズム、ナショナリズム
第7回	近代日本の政治思想	幕末期～明治期の政治思想
第8回	近代日本の政治思想	大正・昭和期の政治思想
第9回	国際政治	国際政治とは何か・アクター・安全保障ほか
第10回	国際政治	国際政治理論、国際政治の仕組み
第11回	国際政治	「勢力均衡」による国際秩序の確立と破綻
第12回	国際政治	第二次世界大戦後の国際政治
第13回	国際政治と日本	1850年代～1940年代（敗戦まで）
第14回	国際政治と日本	1940年代（敗戦後）～1980年代
第15回	国際政治と日本	1990年代～現在

担当者から一言

本講義は、講義形式で実施します。逐一、疑問点などの有無を確認する時間が取れませんが、もし内容に関して疑問点や聞き逃した点あるいは分かりにくかったなどがあれば、毎回のコメントペーパーに記入してください。次週の冒頭で回答します。

講義名	法学概論（国際法を含む）						担当教員	坂田 雅夫
講義コード	1203110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	137WOC201							

#### 授業概要

この授業では法律に関する基本知識を講義します。隣の人が自分の家の壁を壊した。怒って訪問しても、のりくらりとして、金を払うどころか、謝りさえしない。訴えてやりたいけど、どうすれば良いのか。ある朝、家にいきなり警察が来て、心当たりがないことで、逮捕された、自分はどうかになってしまうのか。こういった、本当は余り身近に来てほしくないけど、運が悪ければいつかやってくる厄介ごと。皆さんが思い浮かべる法律とは、こうした問題にからむものばかりでしょう。もちろん、こういう問題もこの授業では取り上げます。それ以外にも法律は、皆さんの日常生活にいろいろと深く結びついています。ニュース、街角、そして日常生活でみるいろいろな問題や単語が法律と結びついているんだと理解してもらえるのがこの授業の目標です。

#### 到達目標

- (1) ニュースで出てくる法律関係の用語を理解できるようになる。
- (2) 公務員試験の法律・政治学関係の問題への基礎的知識を習得する

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

初回講義時に指示

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	判例法学〔第5版〕	西村健一郎・他	有斐閣	9784641184046
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	カウンセリング論演習/						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	335PSY320							

#### 授業概要

クライアントの感情や行動を理解しながら、彼（女）らのかかえる生きづらさを理解し、生活の細部を想像し、支えるための知識・技法を学ぶ。そのためにカウンセリングや心理療法の理論や知識の習得、およびロールプレイ、事例研究などを通じた実践的なカウンセリング技法の習得をはかる。

#### 到達目標

クライアントが生きづらいとはどういうことなのか想像し、それを支えるとはどういうことか体験的に理解する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		それぞれの回でのワークへの参加と、そのレフレクション、最後のロールプレイ演習への参加と、それらをまとめたレポートの提出を総合的に判断する

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

臨床心理学を受講しておくことが望ましい。

#### 履修資格

講義名	カウンセリング論演習/						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	335PSY320							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	カウンセリング概論	カウンセリングとはなにか？臨床心理学や心理療法とはどのように違うのか？どのようなことを目指すのか、など概論的に学ぶ
第2回	理論を知る－来談者中心療法	来談者中心療法についての文献をジグソー学習し、相互教授によって理解をふかめる
第3回	理論を知る－家族療法	家族療法についての文献をジグソー学習し、相互教授によって理解をふかめる
第4回	理論を知る－不安障害	不安障害についての文献をジグソー学習し、相互教授によって理解をふかめる
第5回	理論をまとめる	2 - 4 回の内容をふまえて仮想事例についてどのように返答するのかを学ぶ
第6回	マスターセラピストに学ぶ	カウンセリングの実際を、教育用DVDでのロールプレイを視聴し、特徴についてディスカッションすることを通して学ぶ
第7回	技法をしる－質問	カウンセリングの基礎技術である質問についてワークを通して学ぶ
第8回	技法をしる－傾聴	カウンセリングの基礎技術である傾聴についてワークを通して学ぶ
第9回	アセスメント	仮想事例をもとに、どのようなことが問題となり、どのように対処すればよいのか計画をたてる
第10回	台本読みのワーク	マスターセラピストのロールプレイの模様の文字起こし資料をよみ、それを実際に台本として演じてみることで、マスターセラピストの体験過程を知る
第11回	ロールプレイの設定、練習	実際の相談事例について、よりリアルな設定をつくるためにカウンセラー役、来談者役にわかれて役作りをし、実際に練習してみる
第12回	ロールプレイ実習－カウンセラー	今回と次回とは、ロールプレイの本番をおこなって、来談者、カウンセラーの体験について知る。
第13回	ロールプレイ実習－来談者	前回と次回とは、ロールプレイの本番をおこなって、来談者、カウンセラーの体験について知る。
第14回	ロールプレイのリフレクション	過去 2 回おこなってきたロールプレイ実習の模様をビデオ視聴しながら、自分たちのやってきたことについて
第15回	まとめ	これまでの学習内容についてふりかえり、カウンセリングについて学びを深める

担当者から一言

講義名	環琵琶湖文化論実習（人間関係）						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 /
講義コード	1400330	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習	
ナンバリング番号	135LAH120							

#### 授業概要

滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。テーマ別に班編成をし、調査を実施し、報告書の作成をおこなう。

#### 到達目標

文献調査、現地調査、聞き取り調査を体験し、文献収集とフィールドワークの基本を身につける。  
地域の歴史、文化、生活に対し、興味・関心を持つようになる。  
個人だけでなく、グループによる調査を行う能力を身につける。  
調査結果を発表し、報告書にまとめる能力を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表および各教員によって指示された提出レポート、最終報告書の内容を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	教育学概論						担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	204TEA101, 235EDU202							

#### 授業概要

本講義では、教育学の基本的概念を学ぶとともに、教育の理念や思想の歴史的展開をふまえながら、教育の本質と今日的課題について検討していく。また、近代教育制度が成立・発展してきた背景を理解し、現代学校の諸課題について考察するための歴史的視座を獲得する。

#### 到達目標

- (1) 教育学の基本原則(理念、歴史、思想を含む)および教育と学習の具体的な現実を往還することで、教育に関わる現代的課題を理解することができる。  
(2) レポート作成を通じ、読み手を意識した論理的な文章を書くことができる。  
(3) 「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート
上記以外	50	中間テスト(20%) 感想および授業中の作業課題(30%)

感想および授業中の作業課題と中間テスト、最終レポートの結果をもとに総合的に判断する。  
3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

授業で扱った内容や参考文献をもとに、教育学の基本原則についての学習を深めること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教師をめざす学びのハンドブック	木村裕・篠原岳司・杉浦由香里・原未来・福井雅英	かがわ出版	9784780310214
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

#### 前提学力等

日本ならびに西洋の近現代史に関する基礎的知識を有すること。  
とくに、ヨーロッパ史について高校の履修範囲を復習しておくことが望ましい。

#### 履修資格





講義名	教育観察実習						担当教員	原 未来 / 木村 裕 / 杉浦 由香里
講義コード	1400520	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習	
ナンバリング番号	235EDU320							

#### 授業概要

今日における学校内外の教育の現状を把握するため現地学習を行い、直接観察することにより、教育のあり方を学習する。  
(なお、受講生の関心や実習先の都合に応じて、順序等が変更になる可能性がある)

#### 到達目標

学校教育、社会教育の実態を把握すること。その上で、教育に関わる問題関心を持つこと。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	事前・事後学習へのとりくみと、見学への参加

上記を、総合的に評価する。ただし、見学への参加は必須とする。

#### 授業外学習

見学に向けた予備的学習およびレポート作成に向けた追加の学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	教育観察実習						担当教員	原 未来 / 木村 裕 / 杉浦 由香里
講義コード	1400520	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習	
ナンバリング番号	235EDU320							

### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	学校見学の事前学習 1	学校見学の事前学習
第3回	学校見学の事前学習 2	学校見学の事前学習
第4回	学校見学 1	学校見学
第5回	学校見学 2	学校見学
第6回	学校見学 3	学校見学
第7回	学校見学 4	学校見学
第8回	学校見学 5	学校見学
第9回	学校見学 6	学校見学
第10回	学校見学の事後学習	学校見学のふりかえり
第11回	社会教育施設見学の事前学習 1	社会教育施設見学の事前学習
第12回	社会教育施設見学の事前学習 2	社会教育施設見学の事前学習
第13回	社会教育施設見学 1	社会教育施設見学
第14回	社会教育施設見学 2	社会教育施設見学
第15回	社会教育施設見学 3	社会教育施設見学
第16回	社会教育施設見学 4	社会教育施設見学
第17回	社会教育施設見学 5	社会教育施設見学
第18回	社会教育施設見学 6	社会教育施設見学
第19回	社会教育施設見学の事後学習	社会教育施設見学のふりかえり
第20回	まとめ	授業全体のまとめ

担当者から一言

初回オリエンテーションに参加すること。スケジュールの詳細は追って連絡するため、各自確認をすること。

講義名	教育心理学						担当教員	黒田 真由美
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	304TEA201,335PSY310							

#### 授業概要

児童期の発達・学習・記憶・動機づけ等の心理学の基本的な概念について概説する。また、教育実践の事例を通して、いじめや発達障害等の問題について理解を深める。

#### 到達目標

「学ぶ」ことの諸側面について、児童期の発達、学習、集団・適応という観点から学ぶ。心理学の用語や理論などの知識を習得すると同時に、心身の発達過程について体系的に学ぶことを目標とする。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	教育制度論						担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	304TEA202, 335EDU304							

#### 授業概要

本講義では、現代日本における教育制度の基本原則や法構造を歴史的展開や具体例を踏まえて明らかにし、21世紀における教育制度の将来像を検討していく。講義では、教育制度の基本理念や制度を形作る基本原則、教育制度と実践の相克に関する事例や論点を取り上げていく。

#### 到達目標

- (1) 現代日本の教育制度の基本原則、歴史的展開、法構造を理解している。
- (2) 教育制度をめぐる論点を理解し、根拠を持って意見を述べられる。
- (3) 「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート
上記以外	50	中間テスト (20%) 感想および授業中の作業課題 (30%)

感想および授業中の作業課題と小テスト、最終レポートの結果をもとに総合的に判断する。  
3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

授業の予習として必ず事前に教科書の該当箇所を読んでくること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	【改訂版】未来を創る教育制度論	川口洋誉・中山弘之編著	北樹出版	
2				
3				

テキストを必ず入手し、第2回の授業から持参すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教師をめざす学びのハンドブック	木村裕・篠原岳司・杉浦由香里・原未来・福井雅英	かがわ出版	9784780310214
2				
3				

#### 前提学力等

教職論、教育学概論を履修していることが望ましい。

#### 履修資格

講義名	教育制度論							担当教員	杉浦 由香里
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA202, 335EDU304								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	教育制度を学ぶ意味	公教育の原理
第3回	教育法のしくみ	教育法規の体系
第4回	日本国憲法と教育基本法	日本国憲法・教育基本法の成立
第5回	教育の目的と目標	新教育基本法と教育目標
第6回	子どもの権利	子どもの権利条約
第7回	教育内容の制度	教育内容に関する制度
第8回	学校の制度	子どもの学習権と多様な教育機会
第9回	学校の制度	地域に開かれた学校
第10回	学校の制度	学校事故と学校安全
第11回	教育の機会均等	子どもの貧困、奨学金問題
第12回	教職員の制度	教職の専門性と学校組織
第13回	教育行政の制度	文部科学省と教育政策
第14回	教育行政の制度	教育委員会制度
第15回	まとめ	ふりかえりとまとめ
担当者から一言		

講義名	教育方法論						担当教員	木村 裕
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	204TEA102, 235EDU301							

#### 授業概要

学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具（情報機器を含む）の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

#### 到達目標

- (1) 自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得すること。
- (2) 自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること。
- (3) 他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教師をめざす学びのハンドブック - 教職入門から教職実践演習まで	木村裕・篠原岳司・杉浦由香里・原未来・福井雅英	かもがわ出版	
2				
3				

この講義では主に第2章を取り上げるとともに、適宜、他の章も参照する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	形成論演習						担当教員	木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	235EDU220							

#### 授業概要

教育学に関わる問題群の中から関心のあるテーマを選び、各自の問題意識をまとめ、参考書や自分で選んだ資料を用いて発表を行うとともに、発表内容に関して他者と議論を行い、互いの考えを深める機会を提供することを目的とする（そのため、演習の内容および進め方については、受講人数や受講生の興味・関心に応じて変更する可能性があることを了承されたい）。

#### 到達目標

- (1) 教育学に関わるテーマについて視野を広げるとともに、さまざまな参考書や資料の検討なども行い、自身の考えを深めること。
- (2) 他者と議論を行い、互いの考えを深めるとともに、それを論理的かつ説得的に言葉で説明できるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	まとめのレポート
上記以外	50%	発表、および、演習への参加（議論への参加、事前事後コメント用紙の提出）

原則として、「3分の2以上の出席」「発表（「ふりがえり」も含む）」「まとめのレポートの提出」を単位認定の最低条件とする。

#### 授業外学習

必ずテキストを事前に読み、その内容に関する意見や疑問などを準備したうえで、毎回の授業に臨むこと。具体的な方法などについては、授業中に適宜指示する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	シリーズ 大学生の学びをつくる わかる・役立つ教育学入門	植上一希・寺崎里水 編	大月書店	9784272412419
2				
3				

テキストを必ず入手すること。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	形成論演習							担当教員	木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	235EDU220								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	演習全体の概要の説明を行う。
第2回	発表資料の作成方法と発表方法	発表資料の作成方法と発表方法についての説明を行う。
第3回	グループ作業	発表準備を行う。
第4回	グループ発表	「貧困世帯の子どもと学校」に関して、発表ならびに議論を行う。
第5回	グループ発表	「ともに学ぶ教室 外国につながる子どもたち」に関して、発表ならびに議論を行う。
第6回	グループ発表	「『性』について考える ジェンダーと性の多様性」に関して、発表ならびに議論を行う。
第7回	グループ発表	「学校は生徒をどう管理するのか 制服から見えてくるもの」に関して、発表ならびに議論を行う。
第8回	グループ発表	「『いじめ』という問題」に関して、発表ならびに議論を行う。
第9回	グループ発表	「これからの高等教育への進路選択を考える」に関して、発表ならびに議論を行う。
第10回	グループ発表	「大学の大量化とユニバーサル化」に関して、発表ならびに議論を行う。
第11回	グループ発表	「話し合う技術の必要性」に関して、発表ならびに議論を行う。
第12回	グループ発表	「世界とつながる教育 ICTを活用した教育実践」に関して、発表ならびに議論を行う。
第13回	グループ発表	「地域と学校の連携 中山間地域の高校魅力化と地域人材育成」に関して、発表ならびに議論を行う。
第14回	グループ発表	「変わる男女のキャリアデザイン」に関して、発表ならびに議論を行う。
第15回	後期オリエンテーション	前期のまとめと後期のオリエンテーションを行う。
第16回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第17回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第18回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第19回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第20回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第21回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第22回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第23回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第24回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第25回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第26回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第27回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第28回	レポート検討会の準備	レポートの草稿を持ち寄り、互いのレポートを検討するための準備を行う。
第29回	レポート検討会	レポートの草稿を持ち寄り、検討会を行う。
第30回	まとめ	演習全体のふりかえりとまとめを行う。

担当者から一言

講義名	現代ジャーナリズム論						担当教員	関根 英爾
講義コード	1400650	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

ネットの進化はメディア社会を大きく変え、現代ジャーナリズムに構造的な変革を迫っている。近代市民社会の形成とともに生まれ、育ってきたジャーナリズム。いま「百年に一度」ともいわれる変化の時代。誰もが簡単にいろいろな情報にアクセスできるだけでなく、発信者にもなることができる。そして、この個人の発信情報は瞬く間に世界中を駆けめぐらる。新聞であれ、テレビであれ、既存の伝統メディアにとっては、伝えるべき情報を発掘し、取材し、編集するという、まさにその存在意義があらためて社会的にも歴史的にも問われている。

そんな新たな「ネット時代」の中で、ジャーナリズムとは何か。なんのために存在するのか。そこには、どんな問題が生じているのか。ジャーナリストはどのような職業で、その本分とはいかなるものか。その役割・機能と責任は変わるのか、変わらないのか。

本講義では、主として既存メディアの軸である新聞とテレビ放送を中心に、日本におけるジャーナリズム、ジャーナリストの現状と課題について、現実、倫理、歴史、理論の領域から考察する。その際、一般にあまりよく知られていない報道・編集の仕組みや情報収集の最前線である取材現場の実像を紹介し、国内外で日々生起するニュースと関連させ、自らの記者体験なども織り交ぜながら進める。

現代は反知性主義の時代ともいわれる。ネットという新たな言論空間において、ジャーナリズム、ジャーナリストのあり方、生き方はどうあるべきか。「ジャーナリズムを生きる」をテーマに倫理面からも追究する。言論・表現の自由、国民の「知る権利」が、なにゆえに重要は意味を持っているのかも合わせて考えたい。

#### 到達目標

- (1) 時々刻々推移する国内外の「できごと」への関心、感性を高める。
- (2) 新聞を読む習慣とメディア・リテラシー（読み解く力）を身につける。
- (3) 情報の収集、発信、分析、評価における「倫理」の重みを知る。
- (4) ジャーナリズムの思想と行動をきちんとつかむ。
- (5) 「民主主義と言論の自由」という普遍的価値への理解を深める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	期末レポート試験を行う。テーマは事前に提示する。期限までに教務部に提出する。
レポート課題		
上記以外	30%	レスポンスペーパーで講義内容に関する意見、提言、感想などを求める。

期末レポートとレスポンスペーパーで総合的に判断する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジャーナリズムの思想	原 寿雄	岩波書店	ISBN4-00-430494-6
2	ジャーナリズムの可能性	原 寿雄	岩波書店	ISBN978-4-00-431170-6
3	現代メディア史	佐藤 卓己	岩波書店	ISBN4-00-026015-4

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名		現代ジャーナリズム論						担当教員	関根 英爾	
講義コード	1400650	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義			
ナンバリング番号										

**授業計画**

回数	タイトル	概要
第1回	はじめに	講義スケジュールや進め方、試験・成績評価の方法を説明する。レスポンスペーパーで講義に関する意見や提言、感想などの提出を踏まえ、文章の書き方(ポイント)を指導する。「偽ニュース」、
第2回	選挙報道	統一地方選、参院選があった。民主主義社会において選挙は国民の意思を政治に反映させる有効で重要な手段。その選挙の「公正な報道」をめくり論議が高まる。どこに問題があるのかを考える。<
第3回	政治と報道	権力を監視すべきジャーナリズムが権力に監視される。「自由な報道」が揺れる背景に何が起きているのか。政治・政権との関係はどうあるべきかを考える。<政治的公平、番組編集の自由、介入、
第4回	新聞記者	ニュースを追い、ニュースに追いかけられる職業。日々、紙面で社内外から評価される能力・結果主義の競争社会。そこに生きる記者の生態を見る。考察する。<特ダネ、筆力、締め切り時間、番記
第5回	ニュースとは	ジャーナリズムは何に食指を動かし、目を凝らし、こだわる? ありふれたことはニュースにならない。新しい、珍しい、変わった、特異なことこそニュースになる。この価値基準に変化の波が打ち
第6回	新聞と新聞社	新聞とは何か。どんな商品で、その特性、機能はどこにあるのか。新聞大国ニッポンだが、新聞離れが続く。経営環境は総じて厳しい。その背景と実態に迫る。<「現実を映す鏡」、かわら版、新聞
第7回	地方紙	一般日刊紙は全国紙、地方紙(ブロック紙、県紙)、地域紙などに大別される。あたかも日本の統治機構にならうかのように配置し、存立している。地方紙を焦点に地域ジャーナリズムを考える。<
第8回	テレビと放送法	東京キー局を軸に全国にネットワークを形成するテレビ。新聞とは違って法律の規制を受ける。テレビの特性を知り、NHK,民放の現状とあり方を考察する。<速報性、臨場感、放送法、電波法、公共
第9回	報道倫理・誤報	ジャーナリズムへの信頼を大きく揺るがす誤報、虚報がなくなる。原因はどこに。「朝日報道」など具体的事例を踏まえさぐる。<捏(ねつ)造、やらせ、松本サリン事件、犯罪被害者、冤
第10回	報道倫理・個人情報	事実に基づく報道はジャーナリズムの原点。事件事故、不正の追及には、事実の発掘、確認、追跡、検証が欠かせない。その「事実の核」である実名が伏せられる。その一方で、個人のプライバ
第11回	記者クラブ	中央省庁、県庁、警察署、民間有力団体、大学などに置かれ、記者の取材拠点として機能する。だが、クラブ加盟に制約があり、国際的にも「情報の自由な流れを阻害する」と批判の対象。日本独特
第12回	戦争と報道	戦争の歴史は、国家の情報操作に屈したジャーナリズムの歴史と重なる。日清・日露戦争から太平洋戦争に至る言論史を通して、戦争とジャーナリズムのかかわりを考える。<発禁、白虹事件、不買
第13回	知る権利	マスメディアの報道は「国民の『知る権利』に奉仕するもの」といわれる。「知る権利」とは何か。その成立基盤と構造を明らかにし、その意義と今後の展開を考える。<憲法、国民主権、取材・
第14回	ジャーナリズムとは何か	ジャーナリズムはどのように生まれたか。その歴史と思想・行動を概観し、「価値と精神」をさぐる。職業人としてのジャーナリストの役割・機能と責任を考える。<近代市民社会、社会のパーツ、
第15回	ジャーナリズムのあした	ジャーナリズムはアナログ時代からネット時代に。それは「情報の自由市場時代」。情報源は細分化され、真偽も定かでない情報が大量にあふれ、流通する。「広大な情報の海」の中で、ジャーナリ

**担当者から一言**

新聞に触れてもらいたい。ニュース、読み物などが、どの面に、どんな扱いで掲載されているか。トップニュースは何か。関心をい尽くす分野の記事一つだけでもいい。見出しだけでもかまわない。ざっと目を通すことで、「ジャーナリズムのいま」を知る手がかりが見つかる。授業の日、図書

講義名	現代社会福祉論						担当教員	中村 好孝
講義コード	1400670	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	335S0C307-C							

#### 授業概要

本講義は、障害、貧困、居住、虐待など、福祉についての個別のトピックと、福祉の社会的な仕組みについて考察する。本講義が特にとりあげるのは、お金がなかったり身体が動かなかったり住む場所がなかったりする人も大変だということであり、そういった人の役に立つ制度も大切だということである。

#### 到達目標

(1)そもそも現代社会の福祉にはどのような対象があるのか、そしてどのような活動が行なわれてきたのか、行なわれているのか、これらについて知る。(2)それらをとりにく社会的条件を知る。(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(30%)。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジユメを配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	現代社会福祉論							担当教員	中村 好孝
講義コード	1400670	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335S0C307-C								

#### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	福祉について社会的に考えるスタンスについて学ぶ。
第2回	障害学	福祉についての社会的議論を代表する議論である、障害学の考え方を学ぶ。
第3回	障害者福祉1	身体障害者福祉の歴史と現状について学ぶ。
第4回	障害者福祉2	知的障害者福祉の歴史と現状について学ぶ。ノーマライゼーションという概念について理解する。
第5回	障害者福祉3	精神障害者福祉の歴史と現状について学ぶ。パターンリズムという概念について理解する。
第6回	高齢者福祉	高齢者福祉の歴史と現状、仕組みについて学ぶ。
第7回	児童福祉	児童福祉の歴史と現状、仕組みについて学ぶ。
第8回	居住福祉	居住福祉という考え方について学ぶ。
第9回	公的扶助	公的扶助の歴史と現状について学ぶ。生活保護の仕組みについて理解する。
第10回	貧困問題1	貧困問題の現状について学ぶ。
第11回	貧困問題2	子どもの貧困の現状について学ぶ。
第12回	ケア論	ケアという概念について学ぶ。
第13回	規範について	福祉についての議論についてまわる、規範的な議論について学ぶ。これまで行なわれてきた、福祉を正当化する様々な議論について理解する。
第14回	福祉国家論	福祉についてのマクロな議論の代表である、福祉国家論について学ぶ。
第15回	全体のまとめ	全体のまとめを行なう。
担当者から一言		

講義名	国際社会論						担当教員	大野 光明
講義コード	1400685	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	235S0C213							

#### 授業概要

20世紀後半以降、それまでの国民国家を基本単位とする世界のありようが大きく変わりつつある。その変化は私たちの日常生活にも深く影響を及ぼしてきた。こうした変動はしばしばグローバル化と呼ばれている。この講義では、グローバル化による世界の変化を学び、考える。具体的には、グローバル化が進行するなかで、どのような現象や問題が起こっているのかを理解し、グローバル化する世界と日本社会を的確に認識するための社会(科)学の理論や概念を身につけることを目標とする。

#### 到達目標

- (1) グローバル化の歴史的な展開を理解する。
- (2) グローバル化に関する社会(科)学の諸理論、概念、問題設定を理解する。
- (3) 現代世界で起きている諸現象や問題、実践について、自らの暮らしや経験にひきつけて、国際社会論の視点から考察し、分析できるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	中間レポート課題(50%)、最終レポート課題(50%)によって評価する。
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメと資料を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国境の越え方	西川長夫	平凡社	978-4582763805
2	魂の労働 ネオリベラリズムの権力論	渋谷望	青土社	978-4791760688
3	構造的暴力と平和	ヨハン・ガルトゥング	中央大学出版部	978-4805712115

参考書や参考となる映像資料等については、随時紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	国際社会論							担当教員	大野 光明
講義コード	1400685	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	235S0C213								

#### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	グローバル化する現代世界を理解する方法としての国際社会論を学ぶ意義を概説する。
第2回	グローバル化の歴史(1)	グローバル化を歴史的な視点から考察するために、資本主義と国民国家からなる近代世界の成り立ち、近代世界が私たちの思考や行動にいかにか深く影響を与えているのかについて学ぶ。
第3回	グローバル化の歴史(2)	グローバル化によって近代社会はどのように変わり、揺らいでいるのか、また、現代世界の特徴とは何かを学ぶ。
第4回	移民	国境を越える人の移動はいかなる世界構造とその変化のなかで起きているのか、人の移動によって生まれている多言語・多文化主義や排外主義などの社会現象を考える。
第5回	安全保障	グローバル化に伴う安全保障のとらえかたの変化について学ぶ。テロリズム、国家安全保障論の限界と新しい安全保障論、日常世界における監視とセキュリティゼーション論などについて考察する。
第6回	フェミニズム	現在の世界構造を読み解く上でフェミニズムは必要不可欠である。「先進国」を中心として成長した第1波・2波フェミニズムと、移民や階級、グローバルな南北関係などの視点をくみこむ第3波フェミ
第7回	貧困	グローバル化に伴って貧困がどのようにつくられ、構造化されているのかについて学ぶ。グローバルノース/グローバルサウス論やオルタナティブグローバリゼーション論などを参照する。
第8回	映像から読み解くグローバル化	グローバル化を描いた映像作品をめぐって考え、批評する。
第9回	労働	資本のグローバル化と産業構造の変化にとまない、労働のあり方は変化している。感情労働論やアンダークラス論などの理論から現在の労働を考える。
第10回	環境	気候変動や原子力発電所の事故などの今日的課題とそれらへの取り組みの歴史、国際レジーム論、人新世論、自律論などの理論潮流について学ぶ。
第11回	都市	グローバル化と都市の関係とそこでの諸現象を理解するために、グローバルシティ論やジェントリフィケーション論を学ぶ。
第12回	社会運動と政治	国境を越えて展開する社会運動やNGOの活動に焦点をあて、トランスナショナルな規範や共同性の生成について考える。
第13回	文化とアイデンティティ	文化の混交・変容・雑種化など、文化の越境的現象を学ぶ。また、グローバル化がもたらすアイデンティティの変容やその反作用的な諸現象を学ぶ。
第14回	大学	グローバル化時代の大学の変容をとらえ、私たちの学びがどのように影響を受けているのか、それをどう考えればよいのかを検討する。グローバル人材論などを批判的に分析する。
第15回	まとめ	全体のふりかえりを行う。

#### 担当者から一言

映像や音楽なども使いながら、文字や講義にとどまらないスタイルで授業を進めたい。

講義名	現場心理学						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400710	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	335PSY308							

#### 授業概要

私たちの日常生活における「当たり前」を問い直し、批判的な視点から日常をとらえなおす力を養うことを狙いとする。具体的には「司法」と「臨床」が交わる現場、すなわち犯罪・非行、児童虐待、いじめといった問題を取りあげる。司法と臨床は、同じ現場を共有しているようでありながら、そのアプローチ方法はそれぞれ異なっており、両者をつきあわせてみることで、ともすると人々が「当たり前」だと思っていたことを問い直すきっかけになる。本講義では、いくつかの立場からの研究例を示しつつ解説しつつ、どのような問題があるのかを考える。授業では一方的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッション、種々のワークを取り入れる。積極的な参加を期待する。

#### 到達目標

司法臨床場面をあつかった心理諸科学における基礎的用語を理解し、用いることができる。  
司法臨床的な問題解決についての自分なりの方針をたてることができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	普通の授業における発表、レフレクションシートへの記入(50%)、最終レポート(50%)をもとに総合的に判断する。

#### 授業外学習

授業毎にグループでの話し合いなどをする場合がある。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

#### 履修資格

講義名	現場心理学						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1400710	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	335PSY308							

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	これからの授業展開、とりくむ課題について説明しつつ、非行少年の現状について統計にもとづいて学ぶ
第2回	自白の心理学	なぜやってもいけない罪を自白するのか。冤罪を防ぐための取り組みの実際について紹介する
第3回	目撃証言の心理学	犯罪捜査場面で用いられる心理学的知見、とりわけ、司法面接について紹介する
第4回	非行少年の誤謬	非行少年とはどのような存在かをめぐる、社会一般でもたれているイメージを、統計的研究の結果からよみとく
第5回	裁判員ゲーム	仮想事例について考えていくことで裁判において大事になってくるコミュニケーションのあり方について学ぶ
第6回	虐待と非行	非行に密接な影響を与えるもののひとつである虐待について述べる
第7回	虐待が人の心身にもたらす影響	非行にかかわらず、虐待をもっていることがいかにその人の人生に生きづらさをもたらすのかを紹介する
第8回	非行少年への心理的視点	非行少年の共感性、あるいは規範意識、罪悪感のなさといったところでの特徴について知り、非行少年の心理学的見方を紹介する
第9回	非行少年への福祉的視点	非行少年にあたる貧困や、居場所の影響について知るとともに、児童自立支援施設でのとりくみを紹介する
第10回	非行少年の家族支援	非行少年がいることで、社会からの非難の目にあいがちな保護者、家族をどのように支えていくべきなのか、あるいは家族再統合はありえるのかといった問題について紹介する
第11回	非行少年と発達障害	非行少年事例のなかに少なからずあって、処遇を困難にする要因とされる発達障害について概説する
第12回	非行少年への心理的アプローチ	非行少年の更生をねらった処遇におけるSSTや内省作業といったものについて、DVDを視聴することを通して体験的に学ぶ
第13回	学校教育における非行-いじめ	学校教育場面のなかでしばしば問題にされるいじめの問題についてとりあげる
第14回	学校教育における非行-暴力、警察連携	学校教育場面における、生徒と教師、生徒同士からなる暴問題と、警察との連携の実際について知る
第15回	まとめ	過去の内容をふまえ、仮想事例について作成し、それを処遇の観点から語り直す
担当者から一言		

講義名	行動論演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 後藤 崇志 / 神崎 真実
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	235PSY221							

#### 授業概要

行動科学や社会科学における問いのたて方や研究方法の実際について学ぶ。身近な生活や地域での人々のかかわりに素材を得て研究テーマを設定するところから、グループ演習を中心に授業を実施する。

#### 到達目標

質問紙法、観察法、実験法、インタビュー法など、心理学研究をおこなっていくうえでの基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	授業中の発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	行動論演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 後藤 崇志 / 神崎 真実
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	235PSY221							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	心理学研究法の概要	実証的研究のタイプと長所・短所に関する理論的事項の説明
第2回	実験法 1	要因計画法による実験の実施 ( 1 )
第3回	実験法 2	要因計画法による実験データの分析 ( 1 )
第4回	実験法 3	要因計画法による実験の実施 ( 2 )
第5回	実験法 4	要因計画法による実験データの分析 ( 2 )
第6回	実験法 5	要因計画法による実験デザインの考え方
第7回	実験法 6	実験レポートの書き方
第8回	実験法 7	実験計画の実践：立案から実験の実施、データのまとめまで
第9回	質問紙法 1	手法の特徴を知る
第10回	質問紙法 2	信頼性・妥当性について分析する
第11回	質問紙法 3	因子構造について分析する
第12回	質問紙法 4	仮説について検討する ( 1 )
第13回	質問紙法 5	仮説について検討する ( 2 )
第14回	質問紙法 6	仮説について検討する ( 3 )
第15回	質問紙法 7	分析結果を報告する
第16回	インタビュー法 1	インタビューの特徴について知る
第17回	インタビュー法 2	インタビューデータのコーディング
第18回	インタビュー法 3	コーディングからカテゴリー化へ
第19回	インタビュー法 4	カテゴリー化から概念作成
第20回	インタビュー法 5	モデル作成、ストーリーライン
第21回	インタビュー法 6	他のインタビュー分析法について
第22回	インタビュー法 7	インタビュー分析をレポートにまとめる
第23回	観察法 1	観察法の理論を理解する ( 1 )
第24回	観察法 2	観察法を理論を理解する ( 2 )
第25回	観察法 3	実際に自分でデータをとってみる
第26回	観察法 4	実際に自分でデータをとってみる
第27回	観察法 5	データを分析してみる
第28回	観察法 6	データを分析してみる
第29回	観察法 7	データ分析結果のプレゼンテーション
第30回	総括	全体のまとめ

担当者から一言

授業実施計画の順番は変更する可能性がある。  
原則として人間関係学科の学生の履修とする。他学部、他学科生については、履修前に担当教員に相談のこと。

講義名	産業心理学						担当教員	谷口 友梨
講義コード	1400920	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	335PSY311							

#### 授業概要

本講義では、キャリア発達、集団特性、集団内の影響、安全と事故といった産業心理学の基礎的なテーマを中心に講義を行う。私たちは従業員や雇用者、あるいは消費者として、産業と密接に関わりながら生活をしている。人々が産業と関わる際、そこには様々な心理が働く。その際の人間の心的メカニズムを研究知見に基づき解説する。これによって、将来の職業生活（ワーク・ライフ）に向けて自らのキャリア発達について考える機会としたい。

#### 到達目標

- 1) 各講義で紹介あるいは議論された知見を自分自身の言葉で要約して表現することができる。
- 2) 産業心理学に関わる事象を複数の観点から理解し、その事象についての自分自身の意見や見解を伝えることができる。
- 3) 産業心理学の知見（授業で身に付けた知識や考え方）と自身の生活との関連を表現して伝えることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)(2)(3)について、筆記試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	30	・毎回の講義のコミュニケーションペーパーの提出(20%：到達目標1に対応) ・ワーク、プロジェクトなどの授業内の活動への参加と振り返り(10%：到達目標2と3に対応)

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	よくわかる産業・組織心理学	山口裕幸・金井篤子(編)	ミネルヴァ書房	ISBN-10: 4623048713 ISBN-13: 978-4623048717
2				
3				

各回授業時に資料を配布します。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	質的データ解析論						担当教員	武田 俊輔
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	230S0C205, 235S0C205							

#### 授業概要

社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、質的調査の方法を習得することを目的とする。

#### 到達目標

- (1) 先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。
- (2) 特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。
- (3) 質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。
- (4) 参与観察の基本的な考え方を習得できる。
- (5) 行ったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	以下の5回のレポートを課す。 1) 先行研究や関連資料、統計データを収集することができる(20%)。 2) インタビュー調査を適切に依頼し、また事前に適切な質問項目を設定することができる(20%)
上記以外		毎回提出してもらったレスポンスカードの内容が優れていた場合、加点を行うことがある。1回につき2点、ただし15回の授業を通して、5回以内(10点以内)とする。

レポートの提出回数が3回以下の場合、評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	自分で調べる技術 市民のための調査入門	宮内泰介	岩波書店	4007001170
2	質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美	有斐閣	4641150370
3	よくわかる質的社会調査 プロセス編	谷富夫・山本努	ミネルヴァ書房	4623058441

授業中にレジュメやレポート執筆に必要な資料を配付する。

#### 前提学力等

社会調査士資格認定科目(F科目。資格取得にはE科目の応用データ解析論と本科目のいずれか1つを履修すること)であり、1回生配当の社会調査論を履修済みであることが望ましい。

#### 履修資格



講義名	質的データ解析論						担当教員	武田 俊輔
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	230S0C205, 235S0C205							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	質的調査法の概要と講義全体のスケジュール、レポート評価課題について説明する。
第2回	社会調査における「質的調査法」の位置づけと特徴：「量的調査」	量的調査と質的調査を対比させつつ、量的調査におけるサンプルの「代表性」と、質的調査における事例の「典型性」という考え方について説明する。
第3回	調査における「問題意識」の重要性	調査を行う上で、どのような問題意識を持つかによって、同じ事例を見ても全く見え方が変わってくる。調査を進めていく中で問題意識の変容とそのことが持つ意義について説明する。
第4回	質的調査におけるドキュメントの発見・収集とデータ化：公的文書	調査を行うに当たって、まず行わなければならないのはテーマに関する先行研究や関連資料の収集である。それらの収集方法について具体的な方法を説明する。
第5回	ドキュメント分析の具体例と実践	収集した文書資料をどのように分析するか、その具体的な事例と方法を説明する。
第6回	聞き取り調査による素材の収集とデータ化のプロセス	インタビュー調査をどのように行うか。その依頼のプロセスに始まって、実際にインタビューを行う上での注意点、またインタビューで得たデータをどのように分析するかについて説明する。
第7回	聞き取り調査の具体例と実践	担当者自身の聞き取り調査に基づくデータ分析を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第8回	参与観察法による素材の収集とデータ化のプロセス	参与観察による調査をどのように行うか。その注意点やデータの整理・収集、その分析方法について説明する。
第9回	参与観察調査の具体例	担当者自身の参与観察調査に基づくデータ分析を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第10回	データの整理と編集：メモ・ノート・カード・KJ法	史資料・インタビュー・参与観察等を通じて様々な形で集まったデータについて、いかにメモやフィールドノーツを作成し、また整理するのか。その具体的な方法について説明する。
第11回	社会調査という行為の社会性：「調査非協力」・ラポール・オー	社会調査を行う上で注意しなくてはならない調査倫理、そして調査そのものが持つ社会性という問題について論じる。
第12回	歴史社会学的研究：内容分析と言説分析	担当者自身の内容分析・言説分析に基づく研究を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第13回	言説生成研究と社会問題の社会学	ある特定のテーマが「社会問題」として人々の意識に浮かび上がるプロセスについて、どのように分析するかを説明する。
第14回	ライフヒストリー研究：フィールドとしての個人	ある1人の個人の人生にも、そこには「社会」が反映している。そうした個人もまた一つのフィールドであり、そうした個人を通じて社会のあり方を分析する方法について説明する。
第15回	概念の構築と脱文脈化・再文脈化：調査を「報告書」「卒論」に	実際に調査したデータを、報告書や卒論にまとめるまでにどのようなプロセスを経るのかについて説明し、講義全体のまとめを行う。

担当者から一言

映像資料を数多く使い、それを見ていることを前提に講義を行う。また授業内でレポートを書いてもらうことや、授業内でレポート執筆に必要な資料を配付することもある。レポートは出席を前提として課すため、欠席しないこと。

講義名	労働・社会政策論						担当教員	橋口 昌治
講義コード	1401025	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

多くの人を悩ませてきた「労働」「働くこと」について、これまでどんなことが研究され、考えられてきたのか。労働問題に対してどのような取り組みがなされてきたのか。そして、みなさんに何ができるのか。これが本講義のテーマです。

#### 到達目標

(1) 働き方に関する様々な見方や議論、(2) 日本の雇用や就職の特徴、(3) 社会政策の目的や内容、(4) 労働運動の歴史や役割

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	上記の4点について理解できているか確認する試験を行う。
レポート課題	0	
上記以外	30	毎回提出してもらったコメントカードへの内容

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす	濱口 桂一郎	中公新書ラクレ	4121504658
2				
3				

そのほか参考になる文献については講義で紹介します。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	社会学演習						担当教員	丸山 真央 / 中村 好孝 / 大野 光明
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	235SOC220							

#### 授業概要

この演習では「社会と人間」という視点から、人間関係を理解・認識するための「見る眼」と「問題を発見する能力」を習得することを狙いとする。問題意識を明確にし、共通の理解を深めるために、下記の授業計画に沿って参加者はグループに分かれ、各グループで発表者、司会の役割を分担して演習を進める。発表者はレジュメを作成して報告し、それについて全員で討議する。発表・討議が完了したのち、発見された問題点、共有された見解についてレポートを作成し、提出する。

#### 到達目標

- (1) 社会学の基本的な知識と視点を獲得する。
- (2) 現代日本社会の構造と変動および諸問題を社会学的に捉えることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	レポートを課し、到達目標の(1)と(2)について評価する((1)50%、(2)50%)。
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書については、初回授業の際に説明する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。前もってプリント等を配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	社会学演習						担当教員	丸山 真央 / 中村 好孝 / 大野 光明
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	235S0C220							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業全体についてのガイダンスを実施する。
第2回	社会問題における家族(1)	「メディアにおける変容」について考える。
第3回	社会問題における家族(2)	「問題の実体化プロセス」について考える。
第4回	社会問題における家族(3)	「家族における葛藤」について考える。
第5回	社会問題における家族(4)	「社会的条件」について考える。
第6回	社会問題における家族(5)	「当事者から見た家族」について考える。
第7回	社会問題における家族(6)	「親の会の機能」について考える。
第8回	社会問題における家族(7)	「成員のライフストーリー研究」について考える。
第9回	社会問題における家族(8)	「社会的取り組み」について考える。
第10回	社会問題における家族(9)	これまでの議論を振り返る。
第11回	まとめ(1)	第2～10回のまとめをおこなう。
第12回	差異と暴力(1)	社会のなかの差異とそれをめぐる暴力というテーマの重要性を考える。
第13回	差異と暴力(2)	ジェンダーについて考える。
第14回	差異と暴力(3)	セクシュアリティについて考える。
第15回	差異と暴力(4)	人種について考える。
第16回	差異と暴力(5)	民族について考える。
第17回	差異と暴力(6)	国境について考える。
第18回	差異と暴力(7)	労働について考える。
第19回	差異と暴力(8)	文化について考える。
第20回	差異と暴力(9)	社会運動について考える。
第21回	まとめ(2)	第11～20回のまとめをおこなう。
第22回	格差と階級(1)	「新しい階級社会の誕生」について考える。
第23回	格差と階級(2)	「アンダークラス」について考える。
第24回	格差と階級(3)	現代日本の「アンダークラス」について考える。
第25回	格差と階級(4)	若年層の階級構造について考える。
第26回	格差と階級(5)	女性の階級構造について考える。
第27回	格差と階級(6)	老年層の階級構造について考える。
第28回	格差と階級(7)	「失業者・無業者」について考える。
第29回	格差と階級(8)	「アンダークラス」の諸論点を議論し、理解を深める。
第30回	格差と階級(9)	「アンダークラス」と日本社会の将来展望について考える。

担当者から一言

講義名	社会学概論						担当教員	武田 俊輔 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 大野 光明
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	130SOC102, 135SOC201							

#### 授業概要

本講義は、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法について概説し、あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行うものである。

#### 到達目標

- (1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる。  
(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる(50%)、(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる(50%)について、小レポート・中間レポート・最終レポート(合計100%)。
上記以外		

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会学 第5版	アンソニー・ギデンズ	而立書房	4880593508
2	Do! ソシオロジー 改訂版 -- 現代日本を社会学で診る	友枝敏雄他編	有斐閣	4641124965
3	社会学入門	塩原良和・竹ノ下弘久編	弘文堂	4335551401

#### 前提学力等

高校の倫理・政治経済、現代社会、世界史、日本史で修得している程度の知識は必要だが、とくに問わない。

#### 履修資格

講義名	社会学概論							担当教員	武田 俊輔 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 大野 光明
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C102, 135S0C201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	社会学に何ができるのか	イントロダクションとして、社会学的な発想に親しむ。
第2回	家族	家族の社会学的研究の基礎を学ぶ。
第3回	村落・地域社会	村落・地域社会の社会学的研究の基礎を学ぶ。
第4回	階層・階級	階層・階級の基本的な考え方と現実の姿を学ぶ。
第5回	逸脱・社会問題	社会問題に関する基本理論を学ぶ。
第6回	医療	医療社会学の基礎を学ぶ。
第7回	福祉	福祉についての社会学的な議論を学ぶ。
第8回	ネットワーク	社会的ネットワークに関する基本理論を学ぶ。
第9回	軍事・安全保障	軍事や安全保障についての社会学的な議論を学ぶ。
第10回	マイノリティ・差別	差別やマイノリティについての社会学的な議論を学ぶ。
第11回	社会運動	社会運動、労働運動等について概説する。
第12回	教育	教育社会学、若者の移行過程について学ぶ。
第13回	文化・情報・メディア	メディアを素材とした内容・言説分析の方法を学ぶ。
第14回	グローバル化とナショナリズム	ナショナリズムに関する基本理論を、日本の事例から学ぶ。
第15回	まとめ	本講義の内容をまとめ、社会学の視点が何をもちたらすかを学ぶ。
担当者から一言		

講義名	社会精神医学						担当教員	久保田 泰考
講義コード	1401110	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	
ナンバリング番号	335PSY313							

#### 授業概要

「こころ」が、体のひとつの器官としての脳の働きによって成り立っているとすれば、「こころの病気」を扱う精神医学は、脳の調子が崩れる仕組みを研究し、それを効率よく適切に治療することに専念すればよい、と考えられるかもしれませんが、そこで忘れられがちなのは、こころを病む人はたった一人で病むわけではなく、人との関係・ネットワークの中で、人から影響を受け、また影響をおよぼしながら病んでいるという観点です。友達も話し相手もなく、ずっと孤立していたらそれだけで「うつ」になってしまいそうです。また一方で人間関係がわずらわしく、どこかに消えてしまいたいと思うこともまた誰にもあるかもしれません。現代社会の生活から生じるストレスは高まる一方で、「こころの病気」になる人が増え続けていると言われます。こうした言説がどれほどの真実をついているかはさておき、社会と「こころを病む人」の関係を今日改めて問い直すことの重要性は否定しようもないことでしょう。こうした状況を生きのびるために、私たちそれぞれが固有の社会精神医学的視点を持つ必要に迫られているといえるかもしれません。講義では精神医学全般についての知識を広く学習しながら、今日のように社会と精神医学の関係を捉えることが可能であるのかについて、各自が自分なりの見解を持つことを目標とします。適宜映像資料なども交えて、アクチュアルな問題について検討する場を持ちたいと考えています。

#### 到達目標

- (1) 主要な精神疾患・障害について、歴史的な視座も含めた基礎的な理解を深める
- (2) 社会がどのように精神疾患・障害を扱ってきたかについて、批判的に主要な論点を説明することができる
- (3) こころを病む個人と社会の関係について、例えばこころを病む人を取り上げた芸術作品を例にとり、各自が自分なりの考えを表明することができる

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	各自の疑問点を網羅的にリストアップするレポート1と、固有のテーマについて各自の考えを自由に展開するレポート2から評価する。
上記以外	40%	授業中の簡単な討議や意見の表明における積極性、独自の見方を表明する能力、および授業中の小レポート(感想文)から評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料を配布

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ニューロサイコアナリシスへの招待	岸本寛史他	誠信書房	4414400988
2	ニューロラカン: 脳とフロイト的無意識のリアル	久保田泰考	誠信書房	4414416302
3				

#### 前提学力等

こころの病気に関心があること唯一の条件です。

#### 履修資格



講義名	社会精神医学							担当教員	久保田 泰考
講義コード	1401110	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335PSY313								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	うつと社会 1	うつ病の基礎的概念について、その歴史的な変遷について
第2回	うつと社会 2	鬱病の治療と社会の関わり、特に自殺予防対策について
第3回	狂気と社会 1	近代社会は狂気をどのようにとらえてきたか
第4回	狂気と社会 2	現代社会における狂気の在り方、芸術と狂気、テクノロジーと狂気について
第5回	ヒステリーと社会 1	ヒステリーとはなにか、近代精神医学・精神分析とヒステリー
第6回	ヒステリーと社会 2	現代におけるヒステリー、ヒステリーとサイボーグ
第7回	パーソナリティ障害と社会	現代におけるパーソナリティ障害の概念、ボーダーラインパーソナリティを中心に
第8回	ジェンダーと精神医学	精神医学はジェンダー・性の問題をどのように扱ってきたか
第9回	自閉スペクトラムと社会 1	自閉症の歴史について
第10回	自閉スペクトラムと社会 2	自閉スペクトラム概念の拡大と現代の病理
第11回	精神疾患と犯罪 1	そもそも精神疾患と犯罪の関係をどのように考えるべきか
第12回	精神疾患と犯罪 2	刑法と近代精神医学の関係について
第13回	こころの薬	臨床精神薬理学の概説、精神科の薬と社会の関係について
第14回	精神療法	言葉による治療、社会的な言説とこころの病気の関係について
第15回	まとめ	各自が疑問・問題点を整理し、討論する

担当者から一言

講義名	地域社会調査実習						担当教員	塚本 礼仁 / 武田 俊輔
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320							

#### 授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。

#### 到達目標

- (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
- (2) 調査計画を立案することができる。
- (3) 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
- (4) 調査成果を発表し、討論することができる。
- (5) 報告書を作成することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。

#### 授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動にもとづいて調査をおこない、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民俗芸能の伝承活動と地域生活	澁谷美紀	農山漁村文化協会	978-4-540-05325-2
2	地場産業産地の革新	上野和彦	古今書院	978-4-7722-4105-2
3	地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9

講義の中で紹介する。

#### 前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習 のいずれかの単位を修得していることが望ましい。

#### 履修資格

講義名	地域社会調査実習						担当教員	塚本 礼仁 / 武田 俊輔
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと班編成をおこなう。
第2回	調査方法の解説(1)	地域・社会調査の方法、特に調査倫理、危機管理、依頼文書の作成法などについて解説する。
第3回	調査方法の解説(2)	地域・社会調査の方法、特に社会的な基本事項(インタビュー調査や質的調査における質問紙・調査票の作成、データの整理方法など)について解説する。
第4回	調査方法の解説(3)	地域・社会調査の方法、特に地理学的基本事項(統計データの入手・使用法、地形図の使用法、土地利用調査・景観調査の手法など)について解説する。
第5回	先行研究の収集と読解(1)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解(2)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第7回	先行研究の収集と読解(3)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。
第8回	調査計画の策定と発表(1)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第9回	調査計画の策定と発表(2)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第10回	調査計画の策定と発表(3)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第11回	調査計画の策定と発表(4)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第12回	調査計画の策定と発表(5)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第13回	現地調査(1)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第14回	現地調査(2)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第15回	現地調査(3)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第16回	調査成果の発表と討論(1)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第17回	調査成果の発表と討論(2)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第18回	調査成果の発表と討論(3)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第19回	調査成果の発表と討論(4)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第20回	調査成果の発表と討論(5)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第21回	追加調査(1)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第22回	追加調査(2)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第23回	追加調査(3)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第24回	追加調査(4)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第25回	追加調査(5)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論(1)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第27回	報告書原稿の作成と討論(2)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第28回	報告書原稿の作成と討論(3)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第29回	報告書原稿の作成と討論(4)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第30回	報告書原稿の作成と討論(5)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
担当者から一言		

講義名	社会調査方法論						担当教員	大野 光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	230SOC204, 233MKD281, 235SOC203							

#### 授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。  
 社会調査は大きく分ければ、量的調査と質的調査に分けることができる。本講義では、(1)量的調査については、調査票を用いた調査の方法を修得することに重点を置く。具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定(全数調査と標本調査)、標本抽出(無作為抽出、標本数・標本誤差の理解)、調査票と質問文の作成、調査の実施(調査票の配布・回収の方法)、収集されたデータの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング)について学ぶ。また、(2)質的調査については、インタビュー調査およびフィールドワークの方法の具体を学び、フィールドワークの作成方法なども修得する。  
 講義では、グループワークやグループディスカッションを積極的に取り入れる。

#### 到達目標

- (1) 調査目的・方法・手順および調査問題の選択と仮説の設定について理解することができる。
- (2) 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
- (3) 質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に数回の小課題を出して評価する。

小課題(複数回)と最終試験を実施する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会調査の基礎	篠原清夫ほか	弘文堂	978-4335551338
2	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社	978-4589038173
3	質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学	岸政彦ほか	有斐閣	978-4641150379

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

#### 前提学力等

グループワークやグループディスカッションに積極的に参加できる人、あるいは、苦手かもしれないけれどチャレンジしてみようという人の参加をお待ちしています。

#### 履修資格



講義名	社会調査論						担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202							

#### 授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的・生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

#### 到達目標

- (1) 社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
- (2) 社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
- (3) 国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べるができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	到達目標(3)については、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30%	到達目標(1)(2)については、2回程度授業中に小レポートを実施する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な理由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。必要に応じて授業中にプリント等の資料を配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	社会変動論						担当教員	丸山 真央
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

社会変動論は、数十年、時に百年単位で社会の変化を捉える、社会学の基本的な発想の根幹をなす研究領域である。本講義では、都市という具体的な空間・社会をめぐる社会変動がどのように現象し展開したのか・しているのかを学ぶ。そこで、社会変動の具体的な現象形態を知り、社会変動を理解する基礎概念と視点を身につけるとともに、都市の社会学的研究の基本的な視点と知識を得る。授業では、ディスカッションやディベートを適宜とり入れて、個々のテーマに関して理解を深めるとともに、各自の意見形成を促す機会を設けたい。

#### 到達目標

- (1) 社会変動の基本的な考え方や概念を理解する。
- (2) 都市の空間・社会の具体的な諸事象を社会学・社会変動論の観点から捉えることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30%	レポート課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1)15%、(2)15%)。
上記以外	70%	授業中・授業外の小課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1)35%、(2)35%)。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	都市社会学・入門	松本康編	有斐閣	978-4641220157
2				
3				

教科書は各自で入手してください。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は授業中に適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	社会問題の社会学						担当教員	中村 好孝
講義コード	1401190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

本講義では、社会問題（社会病理や逸脱とも呼ばれてきた。ひきこもり、いじめ、非行、DV、虐待、犯罪、自殺など）についての社会的な議論を学ぶ。社会問題については、当事者から・家族から・支援者から・国家からなど、また心理的・経済的など、色々な観点から考えることが可能であるが、社会学も独自の、相当にひねくれた考察を行ってきた。社会学は常識を相対化する点を特徴とするところがあり、そもそもひねくれた学問であるけれども、社会問題の社会学には、その特長が分かりやすく表われていると思う。

#### 到達目標

(1)社会問題について、社会学の諸理論を理解する。(2)現代の社会問題にはどのような対象があるのか、およびそれらを取りまく社会的条件がどのようなものなのかについて知る。(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(30%)。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。

小テストの提出が3分の2に満たない者は評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジユメを配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	社会問題の社会学							担当教員	中村 好孝
講義コード	1401190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	社会問題について社会学的に考えるとどのようなことが、イントロダクションとしての理解を行なう。
第2回	社会問題の定義をめぐって	社会問題がどのように定義されるのか、考える。
第3回	社会問題の社会学の諸理論1	機能主義の考え方について理解する。
第4回	社会問題の社会学の諸理論2	アノミー論を展開した議論について理解する。
第5回	社会問題の社会学の諸理論3	ラベリング理論について理解する。
第6回	社会問題の社会学の諸理論4	構築主義について理解する。
第7回	メディア	メディアが社会問題を取り上げることによって、社会問題がどのように形づくられるのか、理解する。
第8回	当事者	社会問題における当事者をめぐる議論について理解する。
第9回	家族	社会問題論における、家族の位置づけとその変化について理解する。
第10回	支援者	社会問題論における支援者の役割について理解する。
第11回	医療専門家	社会問題論における専門家論として、医療専門家の位置づけについて考える。
第12回	福祉	社会問題論における専門家論として、福祉の位置づけについて考える。
第13回	社会的排除	社会的排除概念について理解する。
第14回	現代の社会問題	摂食障害やDVなど、現代的な社会問題の諸事例について理解を深める。
第15回	全体のまとめ	全体のまとめを行なう。社会問題について社会学的に考える方法態度について整理する。

担当者から一言

講義名	生涯学習論						担当教員	原 未来
講義コード	1401340	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	204CUR103, 235EDU203-C							

#### 授業概要

人々の学びは、さまざまな時期に、さまざまな場で展開されている。本講義では、人間のおよび社会的な発達を視野に入れた生涯学習や社会教育の実践と理論を学んでいく。そのなかで、人々にとっての学ぶことの意味を深めるとともに、自らの学習を振り返る機会としてほしい。

#### 到達目標

- ・学ぶことの意味を様々な視点・立場から捉えなおすことを通じて、学習の意義を考え理解する
- ・他者との議論のなかで、自らの教育観・学習観を言語化し、また、他者の意見から自らの考えを深める

\*受講者の理解や関心、ゲスト講師の都合によって、扱う順序や内容を変更します

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	学期末レポート
上記以外	20	授業後のリアクションペーパーの内容

上記を、総合的に評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に随時プリント資料を配布するほか、参考書も適宜紹介する。

#### 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

#### 履修資格

講義名	生涯学習論						担当教員	原 未来
講義コード	1401340	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	204CUR103, 235EDU203-C							

### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、グループづくり
第2回	なぜ学ぶのか	通信制中学での学びから
第3回	生涯学習とは	生涯教育 / 生涯学習の理念
第4回	子ども・若者期の学習 1	遊びと学び、居場所
第5回	子ども・若者期の学習 2	青少年教育施設
第6回	子ども・若者期の学習 3	青少年教育施設の取り組み（ゲスト講師）
第7回	子ども・若者期の学習 4	若者支援、ユースワーク
第8回	人々の生活と学習 1	障がいのある人々の生活と学び
第9回	人々の生活と学習 2	文化的生存権
第10回	人々の生活と学習 3	公民館
第11回	人々の生活と学習 4	公民館の取り組み（ゲスト講師）
第12回	生涯学習の理論	生涯学習における学習論
第13回	生涯学習の課題	生涯学習の今日的課題
第14回	レポート相互検討	レポート相互検討
第15回	まとめ	全体のまとめ

### 担当者から一言

グループワーク・意見交流などの機会が比較的多い授業になります。

講義名	消費生活論						担当教員	小牧 美江
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133MKD182, 134NUT214, 135LAH207							

#### 授業概要

私たちは、生活に必要な商品(物・サービス)を購入し、消費することで生活を営んでいる「消費者」である。消費生活論は、私たちの生活のあらゆる場面で消費者が行う消費の側面から分析し、その成果をもとに、より良い消費行動を通じて経済活動を活性化し、消費者被害・消費者問題の発生を防止、消費者被害救済のシステムを改善するなど、私たちの生活の改善や社会の改善につなげていく学問である。

本講義では、消費生活を分析する視点として、「法」と「人権」に着目する。「消費」を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直し、そこに登場する「消費者」「事業者」の権利と責任、関係性、消費者トラブルの実情と原因、消費者法・消費者行政が果たす役割、消費者の人権について考えていく。

消費者が、社会問題、倫理、世界情勢、将来世代の状況等、様々な社会状況や課題を考慮して消費行動を選択することで事業者や政府に対して能動的に働きかけを行うことを通じて、消費者自身の権利を守り、公正な事業活動を促進し、その結果として構築される公正で持続可能な社会を「消費者市民社会」という。本講義では、この消費者市民社会の実現をめざす「消費者市民」とはどのような消費者なのかについても、消費者の権利と責任をキーワードとして考え、自らも「消費者市民」としての行動ができるようになることをめざす。また、「消費者市民を育てる消費者教育」のあり方についても考えていく。

講義形式を中心とするが、適宜、プレゼンテーションなどの演習も取り入れる。

#### 到達目標

- (1)消費生活をさまざまな角度から分析するための基礎となる知識を学び、自分の言葉で説明することができるようになる。
- (2)消費者である自分自身の消費生活に関する課題に気づき、その課題解決に必要な情報を収集・分析し、課題を解決しようとする態度を身につけることができる。
- (3)消費者の権利と責任、消費者市民社会について理解し、消費者市民としての行動ができるようになる。
- (4)消費者教育が様々な年齢層・場面等に応じて行われることを学び、自分が消費者教育に関わることができる場面と方法を見つけることができるようになる。
- (5)消費生活をさまざまな側面から分析することを学び、自分が専門に研究を深めたいと考えている分野の学問と消費生活との接点を見つけることができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	到達目標(1)(4)(5)については、レポート試験を課す。50点満点とし、課題を理解し説明できているか(25点)、自分の学習成果を盛り込み見解を述べているか(15点)、レポート全体が文章として完成しているか(10点)の3基準で採点する。レポート作成方法については、授業中に指導する。
上記以外	50	到達目標(2)(3)については、授業中に提示する小レポートの成果(20点満点)と、課題レポートの発表(プレゼンテーション)の成果と発表方法(30点満点)を採点する。レポート作成・発表方法については、授業中に指導する。

全15回のうち5回以上欠席した場合は評価の対象としない。

#### 授業外学習

授業外においても、消費者庁、国民生活センター、適格消費者団体等のウェブサイトで公開されている消費者被害情報など、消費者に関する情報や報道に注目し、自身の消費者としての日常生活における行動を点検する姿勢を身に付けてほしい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新しい消費者教育 - これからの消費生活を考える	神山久美・中村年春・細川幸一編著 / 日本消費者教育学会関東支部	慶應義塾大学出版会	9784766423075
2				
3				

授業中に配付するレジュメ・資料と共に用いる。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	18歳から考える消費者と法・第2版	坂東俊矢・細川幸一	法律文化社	9784589036124
2	ジェンダーで学ぶ生活経済論・第2版	伊藤純・斎藤悦子	ミネルヴァ書房	9784623073542
3	消費者政策 - 消費生活論・第5版	鈴木深雪	尚学社	9784860310806

この他、授業中に参考図書を通覧紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	心理・発達・行動学実験演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 後藤 崇志 / 川崎 敦子
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	135PSY220							

#### 授業概要

人間行動に対する総合的な研究実習を目的とする。1)人間の行動や心の働きを、どのように記号化し、どのように解析することができるか・できないかを、具体的な実習を通じて検討する。2)観察行動自体を制約するヒトの認知・コミュニケーション特性に焦点をあて、これに関する基礎的な心理学実習を実施し、データの扱いを学ぶ。3)行動発達の場合である、野外の研究フィールドや教育・福祉関係の実践現場にでかけ、各種観察法を実習する。

#### 到達目標

行動観察法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察、報告までのプロセスを実践的に習得する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	発表や各担当教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。

#### 授業外学習

適宜実施する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	心理・発達・行動学実験演習						担当教員	松嶋 秀明 / 上野 有理 / 後藤 崇志 / 川崎 敦子
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	135PSY220							

#### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	フィールドに出てフィールドノートに書く	フィールドノートを書く。イヤー・クリーニングと簡単なできごとの記述。
第2回	行動観察の第一歩	鉛筆の持ち方を題材に、行動の分類方法を考える。タイプ（排他的）とアスペクト（排他的でない）の考え方。
第3回	目を使わずに考える	アイマスク歩行実習。体験をことばにする。
第4回	映像と音声記録の基本	カメラの扱い方、三脚、レコーダーの使い方。フィールドで映像と音声を記録する方法。記録したものを保存し分ける方法。
第5回	学内フィールドワーク	学内インターフェースの調査。静止画像の撮影方法と収集、比較方法。画像を取り込んだレポートの書き方。
第6回	学内フィールドワーク（2）	学内のドア開け行動を観察する。多人数のインタラクションを記述する第一歩。
第7回	行動の時間構造を分類する。	簡単な相互行為を撮影、記録して、そのデータを、もとに行動を時間によって捉える演習。
第8回	行動研究の意義	行動を指標として心の働きを考える
第9回	行動研究の手法	実験的手法と自然観察
第10回	学外実習のための事前学習	研究対象と観察手順の理解
第11回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録
第12回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録
第13回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録
第14回	観察データの処理	学外実習で得た観察データの分析とまとめ
第15回	観察結果の報告	グループ発表会と総括
第16回	科学と実験	科学の見方、実験の意義について認識を深めるワークを行う。
第17回	記憶の基礎	短期記憶・長期記憶の仕組みを捉える実験を行う。
第18回	意味の処理	意味知識の仕組みと働きを捉える実験を行う。
第19回	情報の処理	心の中で行われている情報処理の特徴を捉える実験を行う。
第20回	物事の認識	周囲の物事の認識の仕方を捉える実験を行う。
第21回	コミュニケーション	対人コミュニケーションに関わる心の仕組みを捉える実験を行う。
第22回	日常を切り取る	日常生活で生じる問題を心理学的に捉える実験を行う。
第23回	学外フィールド実習	「関与しながらの観察」とは何かを知る。ぶあつい記述とは何かについて知る。
第24回	学外フィールド実習（事前学習1）	自分たちの学校外の時間、遊びの記憶から、放課後の体験の意義について学ぶ。
第25回	学外フィールド実習（事前学習2）	レクチャーをもとに、「放課後児童クラブ」の実際について学ぶ。
第26回	学外フィールド実習（フィールド・エントリー1）	放課後児童クラブでの参与観察（1）：現場を体験的に知る
第27回	学外フィールド実習（自然場面の記述）	放課後児童クラブでの参与観察（2）：現場になじむ
第28回	学外フィールド実習（仮説検証しつつの観察）	放課後児童クラブでの参与観察（3）：現場にはたらきかける
第29回	学外フィールド実習（ぶあつい記述）	放課後児童クラブでの参与観察（4）：現場を記述する
第30回	学外フィールド実習（レフレクション）	参与観察結果をもとにレフレクションを行い、体験を深める。

#### 担当者から一言

授業実施計画の順番は変更される場合がある。原則として人間関係学科の学生の履修とする。他学部、他学科生については、履修前に担当教員に相談のこと。

講義名	心理学基礎						担当教員	後藤 崇志
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD105, 134NUT106, 135PSY201							

#### 授業概要

現代心理学の基本的なテーマについて解説する。人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などのテーマをとりあげる。心理学的なアプローチにより人間を理解しようとするための基礎的な知識や考え方を身に着けることを目的とする。

#### 到達目標

- (1) 人の思考や行動、社会生活などを支える心の仕組みの基礎について理解を深める。
- (2) 人の心の仕組みを明らかにし、社会に活かそうとする科学的なアプローチについて理解を深める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	授業の内外で提出を求める課題によって、受講者なりの理解や問題設定ができているかを評価する。

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれることがあるので、積極的な参加を求める。

#### 授業外学習

授業の前には、教科書の該当章を読み、自分なりの理解と問題設定を行う。  
授業の後には、参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめての心理学概論	古見文一・小山内秀和・樋口洋子・津田裕之(編)	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1361-9
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	心理学基礎						担当教員	後藤 崇志
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD105, 134NUT106, 135PSY201							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	心理学とは	心理学の歴史や、領域・研究手法の多様性について学ぶ。
第2回	感覚・知覚	人が外界からの刺激をどのように受け取っているかを学ぶ。
第3回	記憶・思考	記憶・思考に関わる諸現象と、それらの現象を支える心の仕組みについて学ぶ。
第4回	学習	生物の行動が経験を通じて変化する仕組みの基礎について学ぶ。
第5回	動機づけ	行動を動機づける心の仕組みについて学ぶ。
第6回	言語	人の言語活動を支える心の仕組みについて学ぶ。
第7回	感情	感情が喚起される仕組みや、機能について学ぶ。
第8回	人格（パーソナリティ）	人の個人差を記述し、理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。
第9回	神経・生理	人の心の仕組みを支える神経活動・生理反応の仕組みについて学ぶ。
第10回	集団・社会	集団・社会生活を行う中で生じる現象を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。
第11回	発達	発達に伴って変化していく人の心の特徴について学ぶ
第12回	進化	進化の視点から、ヒトの心の理解に迫るアプローチについて学ぶ。
第13回	心理臨床	心の病理を理解し、治療に役立てようとする心理学の試みについて学ぶ。
第14回	教育	教育の現場を理解し、改善に活かそうとする心理学の試みについて学ぶ。
第15回	まとめ	講義で扱った様々な概念の関係性について俯瞰しつつ、発展的な学習に向けた紹介を行う。

担当者から一言

--

講義名	生活経営論						担当教員	山田 歩
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	333MKD282, 234NUT371, 335LAH308							

#### 授業概要

この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、私たちの生活をよりよくマネジメントする力とそれらを改善する力を身につけることを目標とします。身近な生活課題をとりあげると同時に、ソーシャル・デザインの視点から展開されている様々なコミュニケーション施策をみていくことで、現在と将来の自分の生活を見つめ直し、それらをよりよいものに設計することに役立ててもらいたいと考えます。授業では受講生みずからも課題を発見し、それを解決するアイデアを考えてもらいます。

#### 到達目標

1. 私たちを取りまく生活環境を理解しているか
2. 社会や生活者が抱える課題を発見し、それらを解決する力を身につけているか

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	社会や生活者が抱える課題を発見する力、また、それらを解決する力について評価する。
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アイデアは地球を救う。希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン	ソーシャルデザイン会議実行委員会	宣伝会議	
2	Communication Shift	並河進	羽鳥書店	
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	生活経営論						担当教員	山田 歩
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	333MKD282, 234NUT371, 335LAH308							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体のオリエンを行います。
第2回	環境	地球環境 消費社会
第3回	環境	地球環境 消費社会
第4回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係
第5回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係
第6回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係
第7回	健康	健康 悩み
第8回	健康	健康 悩み
第9回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策
第10回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策
第11回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第12回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第13回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第14回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する
第15回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する

担当者から一言

講義名	生活と教育						担当教員	原 未来
講義コード	1401575	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	135EDU201							

#### 授業概要

教育やそれにかかわる現象は、誰もが身近に体験してきたものだけに、感情的・主観的に語られやすい。本授業では、統計・インタビュー調査などさまざまな資料の分析をおこなうことを通じて、自らの教育体験や「常識」を相対化し、多角的なものを見方を身につけていくことを目指す。身近な題材から、現代の子ども・若者、ひいては自分が、どのような世界を生活しているのか、教育とは何かについて、考えを深める機会としてほしい。

#### 到達目標

- ・統計資料やインタビューデータ等をもとに、生活・教育現象を正確かつ多面的に把握し、今日の教育的課題について理解する
- ・意見交流のなかで自分の意見を表現し、また、他者の異なる意見から自らの考えを深める

なお、受講生の理解や関心によって、扱う順序や内容を変更する可能性がある。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	学期末課題(レポートもしくは試験)70% 授業後のリアクションペーパーの内容30%

到達目標に即して、総合的に評価する。

#### 授業外学習

資料を事前に読んでくることを求める場合がある。また、授業内で関心をもった事柄については、自身で積極的に学習し、発信してほしい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料プリントを配布するほか、参考書も適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	政治経済学						担当教員	梅澤 直樹
講義コード	1401720	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

経済のグローバル化が深まるなかで、格差の拡大や地球規模での環境問題が深刻化するなど、ひたすら豊かさを追い求め、経済成長を追い求めてきた私たちの経済活動のあり方を見つめ直してみようという問題意識も広がっています。本講義では、こうした問題意識を背景に、「市場経済システム」とはどのような特性を帯びた経済活動のあり方なのか、また「資本主義的経済システム」はどのような特性を帯びているのか、さらに豊かさを追い求めてきた「近代」という時代を見つめ直すとするればどのような点に注目してゆくことになるのだろうかといった問題を考察してゆきます。本講義では、経済学の授業に触れる機会はこの講義だけという受講生にも配慮して、古典派経済学と対比しながら現代経済学の主流派の考え方についてまず紹介します。そのうえで、それらとの比較において政治経済学の特徴を明らかにしながら、資本主義的市場経済システムの特性をあらためて見つめ直そうとしたマルクスやJ.S.ミル、さらにセンやポランニーなどを参照しつつ、私たちが暮らしている経済のあり方が常識としていたるところを見つめ直す、つまり「相対化」し、かつてJ.レノンが歌ったように柔軟に「想像力」を膨らませてゆく姿勢や力を培ってゆきたいと思えます。その結果、受講者が、ひとつの答えに満足するのではなく、むしろ複眼で、さまざまな視点から現代経済の課題をめぐって考える力、習慣を身につけてくれることを期待します。

#### 到達目標

- (1) 社会科学の方法について認識を深め、主体的に学習することの重要性を理解する。
- (2) 市場経済システムの特性について理解する。
- (3) 資本主義経済システムの特性について理解する。
- (4) 上記の(1)～(3)を通じて、そのうちに暮らすことで当然のことと常識化してしまっている事柄について、あらためて複眼で多様な視点から見つめ直し、柔軟に想像力を膨らませて、現代社会が直面する問題の解決に向けて回答を模索する力、姿勢、習慣を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100%	試験問題において、到達目標(1)～(3)について理解度を問うとともに、(4)に関わって、たとえば宅配便のあり方や100円ショップなどについて各自が思うところを論述してもらって、常識にとらわれることなく多様に想像力を膨らませる力をどの程度身につけたかを見る。
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

教科書を指定しますので、予習や復習に活用してください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代経済学史の射程	長尾伸一、松嶋敦茂他	ミネルヴァ書房	9784623084371
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書と併用して、各回の要点を短くまとめたプリント(パワーポイントスライド)を配布します。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	卒業研究・論文（人間関係）						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 /
講義コード	1401822	単位数	4	開講期	前期研究	授業種別	演習	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

「人間関係論演習I～III」での指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題を、所定の様式の卒業論文を完成させる。

#### 到達目標

卒業論文を完成させ提出すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	卒業論文構想発表と卒業論文中間発表の内容、提出された卒業論文の内容、および、口頭試問と卒業論文発表会での状況を総合して合否を評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	卒業研究・論文（人間関係）						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 /
講義コード	1401824	単位数	4	開講期	後期研究	授業種別	演習	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

「人間関係論演習I～III」での指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題を、所定の様式の卒業論文を完成させる。

#### 到達目標

卒業論文を完成させ提出すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	卒業論文構想発表と卒業論文中間発表の内容、提出された卒業論文の内容、および、口頭試問と卒業論文発表会での状況を総合して合否を評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	哲学概論 A						担当教員	鞍田 崇
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	
ナンバリング番号	2300TH202, 235LAH301							

#### 授業概要

これからのあるべき社会の姿をデザインするにはどうすればよいか。

この授業ではその道筋を考えていきます。でも、この課題は、じつは、従来通りの哲学だけでは担いきれません。デザインや建築、工芸や農業、コミュニティ再生など、さまざまな分野の連携があつてはじめて可能となるものです。この授業ではそうした関連ジャンルの現在進行形の動きを適宜参照しつつ、来るべき社会に向けての構想力・判断力を培うことをめざします。

ところで、ここでいう「社会」とは、自分たちが生活をいとなむ社会です。「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」を考える上で、何よりも大事なのは、「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。この講義では、何よりもまず、そうした実感を皆さんと共有していきたいと考えています。

でも、なぜか。社会が大きく変わりつつある、いや大きく変えななきゃいけない時代だからです。この講義を機に、特にみなさんにぜひ考えていただきたいことが2点あります。

#### 到達目標

1. 自分の頭で考えるとはどういうことか、その実際を実感すること。
2. 社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。
3. 身近な日常生活の中に本当の創造性のきっかけをつかむこと。
4. 現代社会で問われていることの思想的意味と歴史的背景を理解すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	学期末の最終レポート課題です。論述力、表現力、着眼点など、総合的に判断します。
レポート課題	35	講義期間中、3回小レポート課題を出します。予備知識なしで取り組めるものですので、ちょっとしたエクササイズと思って取り組んでください。
上記以外	15	平常点として、授業への取り組み方など。

#### 授業外学習

参考事例として掲げたものは、適宜自分でも調べるように。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝の「インティマシー」	鞍田崇	明治大学出版会	978-4-906811-13-7
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝のレッスン	鞍田崇(編)	フィルムアート社	4845911833
2	「生活工芸」の時代	三谷龍二(編)	新潮社	4103365315
3	哲学入門以前	川原栄峰	南窓社	4816500545

#### 前提学力等

哲学概論ですが、狭義の哲学・思想だけが対象ではありません。デザインやアート、建築や工芸、農業や民俗などなど、ひろく柔軟な興味関心をもっていることがのぞましいです。そうじゃない人は、この機会に

#### 履修資格

講義名	哲学概論 A							担当教員	鞍田 崇
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH202, 235LAH301								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	プロローグ	座布団とイスは、どう違いますか？これが、実は哲学の基本です。
第2回	いま「哲学」とは？	哲学とデザイン、デザインと哲学、両者はいまとても近い位置にあります。でも、どのあたりでしょうか。
第3回	あらためて「いま」とは？	COUNTER + TREND = ? エコロジーと社会の20年周期説。過去半世紀にわたるエコの取り組みから「いま」を考えます。
第4回	エコロジー第3世代の幕開け	2010年代は、大きな変化のはじまりの時代。まず、ソーシャル（社会意識）の高まりについて。
第5回	エコロジー第3世代の幕開け	ライフスタイル（生活意識）のブーム化が二つ目。
第6回	エコロジー第3世代の幕開け	「私たち」からの撤退と、「無数の小さな矢印」の時代について。
第7回	エコロジー第3世代の幕開け	20世紀と21世紀のちがい、ゼロ年代と10年代のちがい。
第8回	日常	10年代以降、重要になる問題を、「日常」「感性」「風土」「平凡」の四つのキーワードのもとに考えていきます。まずはその一つ目。20世紀ドイツの思想を参考に、表層文化と基層文化について。
第9回	日常	「つくること」からの撤退、あるいは「ポスト工業化社会」の次について。手仕事のこれからも考えつつ。
第10回	感性	これも自分と認めざるをえない「自分」とは？
第11回	感性	彼は私にキスをした。これを英訳できますか。そこから見えてくる「私」と身体の関係。フランスの思想家たちの議論も参考に。
第12回	風土	シュリンキング・ソサイエティという言葉があります。人口減少期を表す用語です。その意味を、「縮退」から「濃縮」へという視点から。
第13回	風土	ひきつづき、人口減少期の可能性と成長の在り方について。自然をどう考えるかがカギになります。
第14回	平凡	平凡といわれて喜ぶ人はいません。でもじつは大事なのはそこ。ひろがりから深まりへ、「価値観の転倒」の試み。
第15回	平凡 : まとめ	「肯定のみされる平凡」、かつてそう言った日本の思想家がいます。その議論を参考に、講義全体をまとめます。

担当者から一言

講義名	哲学概論 B							担当教員	鈴木 真
講義コード	1402250	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

#### 授業概要

哲学の意義と面白さをわかるには、その古典に触れてみるのが有用です。この授業では、哲学の古典の可能な限り易しい紹介と批評を読んで議論することを通じて、哲学の様々なトピックと議論について考える基礎を作ります。

#### 到達目標

講義で扱う哲学者たちの基本的動機、概念、主張、それを支える方法と証拠、彼らに対する批判を理解し、彼らが扱う哲学的問題について考えるための基礎力をつける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70	
上記以外	30	授業への貢献

#### 授業外学習

授業計画で提示された古典を邦訳でよいので読んでみることをお勧めします。そちらが難しければ、参考書の方を先にひも解いてみてください。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門 哲学の名著	ナイジェル・ウォーパートン	ナカニシヤ出版	4888489033
2	西洋哲学史 1・2・3	パートランド・ラッセル	みすず書房	
3	道徳の哲学者たち	リチャード・ノーマン	ナカニシヤ出版	4888486352

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	哲学概論B							担当教員	鈴木 真
講義コード	1402250	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	導入	授業概要を説明するとともに、受講者を哲学に導入します。そして、古代ギリシャの哲学者ソクラテスの立場と議論を検討します。
第2回	プラトン『国家』	ソクラテスから学んだプラトンが展開した目的論的哲学を紹介し検討します。
第3回	アリストテレス『ニコマコス倫理学』	プラトンの創始した高等教育機関アカデメイアで学んだ、アリストテレスの倫理学を紹介し検討します。
第4回	デカルト『省察』	近代哲学の祖と呼ばれるデカルトの合理主義的認識論と形而上学を紹介し検討します。
第5回	ホッブズ『リヴァイアサン』	近現代的な倫理学・政治哲学の先駆けであるホッブズの立場と議論を紹介し検討します。
第6回	ロック『人間知性論』	ロックの経験主義的な認識論と形而上学を紹介し検討します。
第7回	ヒューム『人間知性に関する探究』	ヒュームの経験主義に基づく懐疑論を紹介し検討します。
第8回	カント『純粹理性批判』	カントの超越論的観念論を紹介し検討します。
第9回	カント『人倫の形而上学の基礎づけ』	カントの倫理学理論を検討し紹介します。
第10回	ミル『自由論』・『功利主義』	ミルの功利主義と、それに基づく自由擁護の議論を紹介し検討します。
第11回	マルクス/エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』	マルクスの『ドイツ・イデオロギー』序論における議論を紹介し検討します。
第12回	エア『言語・真理・論理』	エアの論理実証主義と、それに基づく形而上学批判を紹介し検討します。
第13回	ロールズ『正義論』	20世紀米国の哲学者ロールズの倫理学・政治哲学理論を紹介・検討し、その歴史的意義を考察します。
第14回	パーフィット『理由と人格』	20世紀英国の哲学者パーフィットの人格の同一性についての議論を紹介し検討します。
第15回	セラーズ「科学的人間像」	20世紀米国の哲学者セラーズによる哲学の再定義（自然主義）を紹介し、その歴史的意義を検討します。
担当者から一言		

講義名	統計学基礎						担当教員	澤山 郁夫
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203							

#### 授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。

#### 到達目標

- (1)母集団と標本の概念を身につける。
- (2)相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。
- (3)推定と検定の基本手順を習得する。
- (4)日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	小テストまたはレポート(随時): 各回で扱った統計学的知識を理解できているかを問う。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本	吉田 寿夫	北大路書房	978-4762821257
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	統計学基礎						担当教員	澤山 郁夫
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	統計学は(何の)役に立つのか?
第2回	母集団と標本	サンプリングによって世界を把握するという考え方について。記述統計学と推計統計学の違い。
第3回	分布を考える	分布の代表的な形。偶然のできごとはいかに分布するのか。二項分布について。
第4回	表とグラフ、位置とばらつき	数値計算の前に、データを視覚化し、整理するだけで分かることは何か。位置とばらつきについて。
第5回	記述統計(1)	平均と標準偏差、その表現法。
第6回	記述統計(2)	中央値と四分位数、箱ひげ図。
第7回	正規分布とは何か	正規分布の主な性質
第8回	推定	推計統計学とは何か。中心極限定理と信頼区間。
第9回	比較と検定	仮説検定法、帰無仮説の考え方、平均の比較。
第10回	比較と検定(2)	さまざまな検定法: 平均の差の検定、二乗検定など。
第11回	分散分析と多重比較	要因と水準、対応の考え方。一元分散分析の基礎。多重比較の基礎。
第12回	相関と回帰(1)	記述統計としての相関。相関係数の読み方。
第13回	相関と回帰(2)	推計統計としての回帰。モデルを立てること。「実現値 = 期待値 + 誤差」という考え方。
第14回	さまざまな統計的手法	パラメトリック/ノンパラメトリック検定のいろいろ。多変量解析の紹介。
第15回	まとめ	科学における統計学の位置づけ。統計の用いられ方。統計の誤用について。
担当者から一言		

講義名	日本社会論						担当教員	武田 俊輔
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	130SOC101-C, 235SOC303-C							

#### 授業概要

同じ「日本社会」の中で暮らしつつも、その社会のメンバーシップからはじき出されてきた様々な人々の姿を通して、戦前・戦後の「日本社会」の姿を再検討することにある。労働市場からも教育からも福祉からも排除されていく人々の視点から「日本社会」はどう映るのか。またそうした人々を改めて社会に包摂した形で社会的な連帯を創り出すことの可能性を論じる。

#### 到達目標

- (1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、そのメカニズムを理解することができる。  
(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について理解することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について、の2点についての理解度に基づき、評価を行う。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて、加点する場合がある(最大5点)。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ナショナリズム論・入門	大澤真幸・姜尚中(編著)	有斐閣	4641123357
2				
3				

毎回、レジュメを配布する。

#### 前提学力等

近現代の日本史について、高校教科書程度の知識があることが望ましい(必須ではない)。

#### 履修資格



講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 /
講義コード	1402460	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	
ナンバリング番号	335HUR301							

#### 授業概要

各教員ごとに分かれて、人間関係論のそれぞれの分野に関する既存の成果を概観するとともに、卒業研究のテーマの探求に向けての論文講読、準備、予備的な作業等を行う。

授業履修にあたっては、4月中旬におこなわれる卒業論文の構想発表、10月下旬におこなわれる中間発表、翌年2月下旬に行われる卒業論文発表会への参加を強く推奨する。

#### 到達目標

卒業論文のテーマを決める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポートを総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 /
講義コード	1402471	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

「人間関係論」のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な資料を収集し、分析する。

#### 到達目標

卒業論文の執筆に必要な知識とスキルを習得すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	人間関係論演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 /
講義コード	1402475	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

「人間関係論」のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な資料を収集し、分析する。

#### 到達目標

卒業論文を執筆するための知識とスキルを習得すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間関係論基礎演習						担当教員	学科教員 / 松嶋 秀明 / 上野 有理 / 中村 好孝 / 丸山 真央 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 原 未来 / 大野 光明 /
講義コード	1402481	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	135HUR101							

#### 授業概要

人間関係論への心理学・社会学・教育学のアプローチの基礎を学ぶ。各領域について、その内容と広がり、方法論の基礎を、講義、関連する入門書や基本文献の輪読、初歩的な実験やフィールドワーク、ディスカッション、ディベートなどを通じて学び、人間関係論への関心と理解を深める。

#### 到達目標

人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各アプローチの基本的な視角・方法・知識を習得し、あわせて人間関係研究に必要なアカデミックスキルの基礎を身につける。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	45	最終レポート
上記以外	55	各教員が指示するリアクションペーパーおよび小レポート

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間形成論 A						担当教員	木村 裕
講義コード	1402501	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

現代社会には、貧困や格差、環境破壊や人権侵害など、世界中の国々や人々が協力しなければ解決することが難しい多くの問題（「地球的諸問題」と呼ばれる）が存在している。こうした状況を背景として、地球的諸問題の解決に向けて自ら考え、判断し、行動することのできる市民を育成することが、学校内外の教育活動において取り組むべき重要な課題の1つとなっている。本講義では、こうした課題に取り組む教育活動の1つである「持続可能な開発のための教育（ESD）」に焦点をあてて、ESDの概要や関連する議論について理解するとともに、自分なりのより良い実践のあり方を提案し、それを互いに検討し合うことで改善する機会を提供することをめざす。

#### 到達目標

- (1) ESDの概要と実践上の要点を説明することができるようになること。
- (2) ESDに関する多様な議論や実践事例を知るとともに、それらについての自分なりの考えを持ち、表現することができるようになること。
- (3) 自分なりのESDの実践プランを提案できるようになること。
- (4) 各自が提案した実践プランを検討し合い、改善できるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	まとめのレポート
上記以外	70	講義中に提出するワークシートなど

まとめのレポートの提出がない場合には、単位認定は行わない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、必要なプリント等を配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 - 開発教育研究の継承と新たな展開	木村裕	東信堂	
2	環境教育学 - 社会的公正と存在の豊かさを求めて	井上有一、今村光章編	法律文化社	
3				

その他の参考書等については、適宜、講義中に紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	人間行動論						担当教員	細馬 宏通
講義コード	1402530	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義	
ナンバリング番号	134NUT212, 135PSY202							

#### 授業概要

映像史の中で、「口」という器官は音声と映像とを結びつけるための重要な役割を担ってきた。口を開閉して話すこと、歌うこと、食べること。これらの活動は、口を介して音声と映像の同期を表す表現として、アニメーション史の中で定着してきた。この講義では、アニメーション史上重要な作品を4つ取り上げ、ショット単位で詳細に分析する。この作業を通して、わたしたちが「口」の動きを通して、音声と映像から何をくみ取っているかを考える。

#### 到達目標

- (1)口が映像文化の中で担ってきた役割を理解する(知識・理解)。
- (2)アニメーションがどのような構造でできているかを理解する(知識・理解)。
- (3)自ら映像をショット単位に分割し、各ショットで起こっていることを批評する(興味・関心/思考)。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	中間レポート(50%)、期末レポート(50%)
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか	細馬宏通	新潮社	
2				
3				

#### 前提学力等

とくになし

#### 履修資格





講義名	人間文化論 A						担当教員	藤木 庸介 / Borjigin Burensain / 木村 裕 / 中井 均 / 今井 絵理
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD102, 134NUT102, 135LAH2011, 37BAC102							

#### 授業概要

人間文化学部は、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科の5学科から成っている。しかしそれぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではない。では、それぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのだろうか、それを考える手がかりとして、この講義では異なる学科に属する10組の教員どうしの対談と、各学科の教員による5つのレクチャーが行われる。これから4年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からそのことを考えるヒントをつかんでほしい。

#### 到達目標

- (1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。
- (2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。
- (3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート課題（学生による学科間ディスカッションによるもの）
上記以外	50	各対談時のレスポンスペーパー

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	人間文化論 A							担当教員	藤木 庸介 / Borjigin Burensain / 木村 裕 / 中井 均 / 今井 絵理
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD102, 134NUT102, 135LAH2011, 37BAC102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	この講義の進め方に関するガイダンス。
第2回	地域文化 × 生活栄養	第2回～第11回は各学科から一人の教員が対談形式の講義を行います。学科の組み合わせの日取りは変更される場合があります。教員の組み合わせと講義タイトルは4月のオリエンテーション時に伝え
第3回	生活デザイン × 地域文化	
第4回	地域文化 × 人間関係	
第5回	人間関係 × 生活デザイン	
第6回	生活デザイン × 生活栄養	
第7回	国際コミュニケーション × 地域文化	
第8回	人間関係 × 国際コミュニケーション	
第9回	生活デザイン × 国際コミュニケーション	
第10回	国際コミュニケーション × 生活栄養	
第11回	生活栄養 × 人間関係	
第12回	各学科によるまとめ（1）	生活栄養学科まとめ / 地域文化学科まとめ / 生活デザイン学科まとめ
第13回	各学科によるまとめ（2）	国際コミュニケーション学科まとめ / 人間関係学科まとめ / 次週の準備
第14回	学生自身によるディスカッション	各5学科から最低1人を含むチームを作り、他学科の学生との討議を行います。
第15回	ディスカッションをまとめる	レポートをまとめるためのガイダンス。
担当者から一言		

講義名	人間文化論B						担当教員	亀井 若菜 / 東 幸代 / 吉村 淳一 / 横田 祥子 / 谷口 真紀
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103							

#### 授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」  
文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

#### 到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	ミニレポートもしくは小テストに対する採点
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

その都度、紹介する

#### 前提学力等

#### 履修資格

講義名	人間文化論 B							担当教員	亀井 若菜 / 東 幸代 / 吉村 淳一 / 横田 祥子 / 谷口 真紀
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103								

## 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	新渡戸稲造の文化学術交流その1: 「太平洋の架け橋」の両側	ペアトーク・グループワーク・全体発表を交え、なぜ新渡戸(1862-1933)はアメリカで英文著書『武士道』を出版したのかに迫る。(谷口真紀)
第2回	新渡戸稲造の文化学術交流その2: 「国際連盟の星」の明暗	ペアトーク・グループワーク・全体発表を交え、なぜ新渡戸(1862-1933)は植民地台湾での仕事を引き受けたのかに迫る。(谷口真紀)
第3回	新渡戸稲造の文化学術交流その3: 「平和の使徒」の功罪	ペアトーク・グループワーク・全体発表を交え、なぜ新渡戸(1862-1933)は満州事変での日本の立場を擁護したのかに迫る。(谷口真紀)
第4回	食文化を通してみる文化交流 1	ファストフードの地域戦略を考える。(横田祥子)
第5回	食文化を通してみる文化交流 2	日本におけるハラールフードについて考える。(横田祥子)
第6回	食文化を通してみる文化交流 3	海を渡った中華料理の現地化について考える。(横田祥子)
第7回	日本人の世界観と「鎖国」	日本人の世界観と、その形成要因について考える。
第8回	「鎖国」体制下の対外関係	いわゆる「鎖国」について学ぶ。
第9回	「鎖国」体制下の対外関係	いわゆる「鎖国」の影響について、諸外国との関係や日本人の対外観を考える。
第10回	異文化を象徴する女性像 1	異文化は美術において、女性像を用い象徴的な意味を持たせて表現されることがある。3回を通してその事例を見ていきたい。
第11回	異文化を象徴する女性像 2	女性画家が描く場合(亀井若菜)
第12回	異文化を象徴する女性像 3	ジャポニスムの事例(亀井若菜)
第13回	多言語の状況 スイスの事例	言語意識、言語政策、言語教育、言語対立などの観点からドイツ周辺諸国の多言語状況を概観する。初回は4つの言語を公用語とするスイスの事例を取り上げる。(吉村淳一)
第14回	多言語の状況 ベルギーの事例	3つの言語(オランダ語、フランス語、ドイツ語)を公用語とし、地域別一言語主義という特殊な状況に置かれているベルギーの事例を取り上げる。(吉村淳一)
第15回	多言語の状況 ルクセンブルクの事例	3つの言語(ルクセンブルク語、フランス語、ドイツ語)を公用語とし、三言語併用社会を形成しているルクセンブルクの事例を取り上げる。(吉村淳一)
担当者から一言		

講義名	人間文化論 C						担当教員	宮本 雅子 / 松嶋 秀明 / 中村 好孝 / 遠藤 弘史 / 横田 尚美 / 未定 *
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203							

#### 授業概要

人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題について考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。  
この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を取りあげながら、健康を維持・増進するための食生活について5回講義する(生活栄養学科教員)。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになるとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。

#### 到達目標

(宮本・横田)(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。  
(生活栄養学科教員) 現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を踏まえ、健康を維持・増進するための食生活について理解することができる。  
(松嶋・中村)(1)家族をみるための視点を身につけることができる。(2)現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	(宮本・横田)到達目標の(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること、(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる、については、課題レポート(33%:(1)19%、(2)14%)

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。  
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	発達支援論（人間関係）						担当教員	原 未来 / 水野 友有 / 川崎 敦子
講義コード	1402609	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	235HUR201							

#### 授業概要

乳児期から青年期までの発達支援のあり方について、理論や研究、実践例などから具体的に考える。

#### 到達目標

それぞれの発達段階に応じた支援の理論・実践について理解し、今後のあり方を展望することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	各領域の担当者が示す課題 乳幼児期（35%）、学童期（35%）、青年期（30%）

乳幼児期・学童期・青年期の三領域のうち、一つの領域をすべて欠席した者は、評価対象としない。

#### 授業外学習

各領域の担当者が適宜指示をおこなう。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格





講義名	発達心理学						担当教員	上野 有理
講義コード	1402615	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

私たち人間の子どもは、他の動物に比べ未熟な状態で生まれてくる。しかし子どもは全く無力な存在ではなく、さまざまな認知機能に支えられて外界の物や人と関わり、学び、発達していく。授業では、とくに乳幼児期に焦点をあて、子どもの認知発達を紹介する。ときに大人とは異なる、子どもの行動や心の働きについて、理解を深めることを目指す。

#### 到達目標

- (1) 乳幼児を対象とした心理学研究の手法を理解する。
- (2) 乳幼児期の認知発達とそのしくみを理解する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	定期試験にて、(1)を30%、(2)を30%評価する。
レポート課題	40	レポート課題(レスポンスペーパーを含む)にて、(1)を20%、(2)を20%評価する。
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

#### 履修資格

講義名	発達心理学							担当教員	上野 有理
講義コード	1402615	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	発達心理学の概要
第2回	生後一年の発達	生後一年におきる発達の变化
第3回	五感：皮膚感覚、味覚、嗅覚	五感（皮膚感覚、味覚、嗅覚）の発達
第4回	五感：聴覚、視覚	五感（聴覚、視覚）の発達
第5回	物事のきまりの理解	物理的理解の発達
第6回	因果性の理解	因果性の理解の発達
第7回	自己認知	自己認知の発達
第8回	他者認知	他者認知の発達
第9回	記憶	記憶の発達
第10回	脳の構造	脳の構造と発達
第11回	愛着	愛着形成について
第12回	個性	個性の発達
第13回	言語	言語の発達
第14回	人間の発達	人間の発達の特徴と意義
第15回	まとめ	乳幼児期から児童期、青年期へ

担当者から一言

--

講義名	発達心理学 /						担当教員	水野 友有
講義コード	1402620	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

学校生活での学習や、友達や教師のとの人間関係、親からの自立をめぐる、現代の子どもたちはどのように児童期や青年期を乗り越えていくのかについて考える。特に、義務教育が始まる児童期の人格発達をとりあげ、認知的発達ととも、他者やさまざまな社会的集団とどのようなかかわりが形成されるのか、子どもらが属する社会集団で自我や自己がどのように形成されていくのかについて焦点をあてて論じる。さらに、現代の子どもたちを取り巻く環境を理解した上で、教育的人間関係と社会的支援のあり方をさぐる。

#### 到達目標

他の霊長類と比べて特異的に長いヒトの児童期の心の発達特性を、社会的・文化的要因との関連において理解する。さらに、現代の子どもたちを取り巻く環境を理解したうえで、児童期の子どもの発達支援について考えることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	15	他の霊長類と比べて特異的に長いヒトの児童期の心の発達特性を、社会的・文化的要因との関連において理解しているか。
レポート課題	15	現代の子どもたちを取り巻く環境を理解したうえで、「児童期の子どもの発達支援」に関する自分なりの意見を述べる事ができているか。
上記以外	50	毎回配布するワークシートを予習、授業中、復習に活用することができているか。

授業内で毎回配布されるワークシートの提出(60%)、中間・期末試験およびレポート(30%)によって総合的に評価する。

#### 授業外学習

「発達心理学I」の内容を復習し、理解しておくこと。また、毎回配布されるワークシートの予習課題に取り組むこと、また、授業後は復習課題に取り組む、ワークシートを完成させること。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定のテキストは使用せず、毎回関連資料を配布する。

#### 前提学力等

「発達心理学I」を履修していることが望ましい。

#### 履修資格



講義名	比較認知発達論						担当教員	上野 有理
講義コード	1402690	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

人間の知性はどのように進化してきたのか。なぜそのような進化が生じたのか。チンパンジーやニホンザルなど、人間を含めた霊長類の行動や認知の発達を比較する研究を紹介し、人間の発達と進化について論じる。

#### 到達目標

- (1) 比較認知研究の手法を理解する。  
(2) 生物進化の視点から人間の知性の発達を理解し、人間が育つ社会・文化のあり方を考える。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	授業時間外に課すレポート課題にて、(1)を30%、(2)を30%評価する。
上記以外	40	授業時間内に課すレスポンスペーパーにて、(1)を20%、(2)を20%評価する。

#### 授業外学習

適宜実施する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

#### 履修資格



講義名	文化社会学						担当教員	武田 俊輔
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	230S0C201, 235S0C304							

#### 授業概要

本講義は近現代の日本における文化遺産（特に祭礼や民俗芸能といった無形文化遺産）、そしてそれを活用した観光や地域おこしと呼ばれる現象が、地域社会とそこに住む人々に対してどのような影響を与えるのかについて論じる。美学や建築物に対する関心というより、国民国家や地域社会の政治的・経済状況、観光や地域振興といったテーマと、文化遺産とを結びつけて考えていくことに対する関心を持つ人向けの講義である。

#### 到達目標

- (1) 「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できるようになる。
- (2) 「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る。
- (3) 「伝統」文化の創造と再編成の中で、人々がどのような影響を受け、またそうした状況をどのように活用しているのかについて考察できるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1) 「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できる(30%)。 (2) 「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る(30%)。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて加点する場合がある（5点以内）

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	遺産化 現象の社会学：視点とフィールド	木村至聖・森久聡（編）	新曜社	
2	コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学	武田俊輔	新曜社	
3				

授業中にレジュメを配布する。なお参考書1については2019年4月下旬刊行予定のため、講義開始時には入手できない。参考書2は3月末刊行予定。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	文化社会学							担当教員	武田 俊輔
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C201, 235S0C304								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	講義全体の概要を説明する。
第2回	地域社会の衰退と文化をめぐる政治	なぜ地域社会において文化や祭礼などを通じた観光化や地域おこしが必要とされるのか、そもそも衰退を招いた政治的な原因について論じる。
第3回	創造される「地域イメージ」	1930年代における祭礼や民俗芸能、民謡を通じた地域おこしの流行と「伝統の創造」、そしてそれがもたらした帰結を論じる。
第4回	和太鼓の近代と「伝統」イメージ	戦後日本における伝統的な「和太鼓」のイメージが、メディアを通じていかに「創造」されたかを論じる。
第5回	保存と観光をめぐる疑似対立	一見すると伝統を保存するということと、観光化は矛盾するよう見えるが、実際にはその両者は結びついている。そのメカニズムを論じる。
第6回	文化財をめぐるディスコミュニケーション	「文化財」という保存のための仕組みが、実際には全く違った帰結を生み出すメカニズムを論じる。
第7回	「昔のまま」「伝統」というリアリティ	明らかに「伝統の創造」と思われるにもかかわらず、それが地域住民からは「伝統」と主張され、それが正当性を帯びるのはなぜかについて論じる。
第8回	文化財を拒む人々	祭礼の存続において、「文化財」という冠をあえて拒否する人々の祭礼への考え方について論じる。
第9回	祭礼における社会的文脈の流用	文化財であること、観光の目玉であること、そうした様々な社会的な文脈を活用しつつ、祭礼の担い手が祭礼を存続させていくプロセスを論じる。
第10回	地域社会における文化の流用と再創造(1)	文化の客体化論を中心に、担い手が自らの文化を「観光」という文脈に合わせて再構築していくプロセスを論じる。
第11回	地域社会における文化の流用と再創造(2)	日本国内におけるエスニック・マイノリティが自らの存在を日本社会で主張する上で、いかに文化を流用するのか、そのプロセスを論じる。
第12回	唄のルーツと重なり合う声	唄が人から人へ、地域から地域へと伝播していく中で、いかに創造され、また変容していくのかについて論じる。
第13回	反原発運動と祭りをめぐる相剋	原発に抗して自らの農業や漁業に根ざした暮らしを守ろうとする住民が、いかにして祭礼をそのシンボルとして復活させているかについて論じる。
第14回	ユネスコ無形文化遺産をめぐって	日本における国指定重要無形民俗文化財に指定されている山車・鉦・屋台行事が、ユネスコ無形文化遺産の登録候補となっている。このことが担い手や地域社会にもたらしている現状を論じる。
第15回	まとめ	講義全体のまとめを行う。
担当者から一言		
授業内で映像や音声資料を用い、その内容を前提として講義するため、欠席しないこと。		

講義名	マーケティング論						担当教員	山田 歩
講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	133MKD181,335LAH307							

#### 授業概要

どんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんな場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるように、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

#### 到達目標

企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	マーケティングの考え方を理解できたか
レポート課題	50	宣伝会議賞(25) 授業課題(25)
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	1からのマーケティング 第3版	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	量的データ解析論						担当教員	丸山 真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	230S0C206, 235S0C204							

#### 授業概要

この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。あわせて統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計学に関する理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。

#### 到達目標

- (1) 社会統計のデータを整理・分析する基礎知識（記述統計と推測統計の基礎）を習得する。
- (2) 統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成するレポート課題を課す。
上記以外	70	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成する小課題を課す。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会統計学	ポーンシュテット・ノーキ	ハーベスト社	
2	社会統計学ベーシック	片瀬一男ほか	ミネルヴァ書房	
3	SPSSによる多変量解析	村瀬洋一ほか編	オーム社	

参考書は授業の中で指示する。

#### 前提学力等

「統計学基礎」が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

#### 履修資格

講義名	量的データ解析論						担当教員	丸山 真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	230SOC206,235SOC204							

### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方とパソコンの使用法について説明する。
第2回	統計資料の集め方、使い方、まとめ方：既存統計資料の活用法、二	既存統計資料の活用法と二次分析について学ぶ。
第3回	グラフの基本	グラフの基本について学ぶ。
第4回	量的データとは何か：量的調査のプロセス、変数と尺度、調査票の	量的調査のプロセス、変数と尺度について学ぶ。調査票について説明する。
第5回	多様な分析の方向性(1)：記述統計と推測統計、仮説検証と探索	記述統計と推測統計、仮説検証型の分析と探索型の分析について学ぶ。
第6回	多様な分析の方向性(2)：仮説とモデル構築	仮説と分析モデルについて学ぶ。
第7回	SPSSの基本的な操作法、度数分布表	SPSSの基本的な操作法について説明する。度数分布表について学ぶ。
第8回	変数の加工、代表値とばらつき	変数の加工法について説明する。代表値とばらつきについて学ぶ。
第9回	2変数のクロス集計	2変数のクロス集計について学ぶ。
第10回	関連性を表す統計量：関連性とは何か、相関係数	関連性を表す統計量について学ぶ。
第11回	3変数のクロス集計：関連と因果、擬似相関、エラボレーション	3変数のクロス集計について学ぶ。
第12回	統計的推定と統計的検定	統計的推定と統計的検定について学ぶ。
第13回	独立性の検定と比率の差の検定	独立性の検定と比率の差の検定について学ぶ。
第14回	平均の差の推定と検定：t検定とF検定	平均の差の推定と検定について学ぶ。
第15回	まとめ	授業全体のまとめをおこなう。

### 担当者から一言

社会調査士資格認定科目（C科目）

講義名	量的データ解析論						担当教員	岡本 裕介
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義	
ナンバリング番号	230SOC207, 335SOC311							

#### 授業概要

人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げる。

#### 到達目標

- (1) 各手法の基本的な考え方を身に着けること（これが主たる目的）。
- (2) 計算の概要、統計パッケージの出力の見方を理解し、各手法の誤用を避けられるようになること。
- (3) 研究事例や歴史を紐解いて、具体的な問題意識との関連を考えられるようになること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	演習問題を解いて提出する。多変量解析の場合、分析者の裁量の余地があるので、正解は1つではないが、基本的な注意事項をふまえて解答しているかどうかを評価基準とする。
上記以外		

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布する。講義中に随時推薦する。

#### 前提学力等

統計学基礎、量的データ解析論 が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

#### 履修資格

講義名	量的データ解析論							担当教員	岡本 裕介
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C207, 335S0C311								

**授業計画**

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	多変量解析とは、表計算ソフトと統計パッケージの利用、その注意点
第2回	重回帰分析(1)	重回帰分析とは、研究事例、説明変数選択の方法、多重共線性の問題
第3回	重回帰分析(2)	独立変数にカテゴリーデータを使う場合、数量化理論I類
第4回	重回帰分析(3)	統計パッケージの出力、使用時の注意点、報告書に書くべきデータ
第5回	重回帰分析(4)	演習問題
第6回	因子分析(1)	因子分析とは、歴史、研究事例、主成分分析、共通性と独自得点
第7回	因子分析(2)	因子抽出、回転の諸方法、不適解
第8回	因子分析(3)	因子得点の推定、尺度値
第9回	因子分析(4)	統計パッケージの出力、使用時の注意点、報告書に書くべきデータ
第10回	因子分析(5)	演習問題
第11回	林の数量化理論	数量化理論とは、種類、研究事例、他のカテゴリーカル・データ分析法
第12回	数量化理論III類(1)	数量化理論III類とは
第13回	数量化理論III類(2)	統計パッケージの出力、主成分分析による出力との比較
第14回	数量化理論III類(3)	演習問題
第15回	総合演習問題	復習と演習問題
担当者から一言		

講義名	臨床心理学						担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1403190	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	335PSY307							

#### 授業概要

臨床心理学とは、心理学的知見をもとにして対人援助実践をおこないつつ、同時に、その過程をよりよいものにするために研究をおこなっていくものである。この授業では、種々の精神障害や、発達障害などについての知識や、現代において主流となっているいくつかの治療理論・技法についての知見を概観しつつ、心理学的に人を援助するとはどのようなことなのか論じる。実際の授業では、講師から受講生への一方的なレクチャーにとどまらず、仮想的な事例や、映像教材をもとにした受講者同士のディスカッションやワークを多くとりいれる。そのことによって、知的に理解にとどまらず、実感をともなって心理学的に人を援助することを考えられるようにする。受講生諸君の積極的な参加を期待している。

#### 到達目標

臨床心理学における基礎的用語を理解し、用いることができる。  
臨床心理学的対人援助についての自分なりの方針をたてることができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	普通の授業における発表、レフレクションシートへの記入(50%)、最終レポート(50%)について総合的に判断して評価する。

#### 授業外学習

5 - 6回のビデオや教材を用いた自主学習の結果をまとめたレポート。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

#### 履修資格

--



講義名	臨床心理学							担当教員	松嶋 秀明
講義コード	1403190	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	335PSY307								

#### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	臨床心理学とは何か?	臨床心理学とはなにか?をテーマとして、本講義でねらいとする点について概説する
第2回	心理相談をする前に	個別の心理相談の前提となる、倫理や、相談の枠組みなどについて事例をもとにディスカッションしつつ、概説する。
第3回	異常とはなにか	統合失調症の病理について学びつつ、異常という概念、診断という行為の持つ意味についても学ぶ
第4回	人の話をきく基本	カウンセリングの基本である傾聴技法について概説する。
第5回	自分自身になりましょう	傾聴技法のもとになっている「来談者中心療法」を、創始者であるカールロジャースのセッションの記録映像を視聴しつつ概説する。
第6回	人目が気になる人、自分なんか価値がないと思う人の心理	不安障害、うつ病といった症状の病理について、仮想事例とともに学ぶ
第7回	原因はあなたの「認知」です	不安障害、うつ病を例にとりながら、認知行動療法の書技法、概念について学ぶ
第8回	人と安定した関係を築けない人の心理学	パーソナリティ障害の病理について学ぶ
第9回	原因はあなたの過去経験です	パーソナリティ障害の事例を参考にしつつ、精神分析によって人のところがどのようにモデル化されるか学ぶ
第10回	生活することが辛い人の心理	自閉症、ADHDといった障害について学ぶ
第11回	行動療法、環境のデザイン	自閉症、ADHDといった症状や、あるいは不安障害などを例にとりながら、それへの対処法としての行動療法について学ぶ
第12回	本当の原因なんてありません	統合失調症をはじめとした事例をもとに、家族療法の最新の展開であるナラティブセラピーや、オープンダイアログ、そして古典的なシステム理論について学ぶ
第13回	心理アセスメントとケースフォーミュレーション	これまでの病理とセラピーについての学びをもとにして、実際の事例に即してどのように心理的問題をみため、対処について考えていくのかを学ぶ
第14回	臨床心理学の実践領域	臨床心理学の適用先について学ぶなかで、あらためて臨床心理学の基礎知識について学ぶ。ここでは学校臨床を主にとりあげる。
第15回	まとめ	これまで学んできた知識を体系づけるために、心理学の歴史についてふれながらまとめを行う。
担当者から一言		

講義名	家族論						担当教員	村上 潔
講義コード	1403240	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

授業テーマ  
産むこと、「母[はは]する」ことをつかみ直す 資本主義と性/愛/家族、その先の地平  
趣旨  
本授業は、「産」（生殖・妊娠・出産）と「母」（育児・ケア・母性）という側面の再検討を通して、「家族」のありかたの問題にアプローチするものである。  
メインのキーワードは、「マザリング[Mothering]」である。この言葉をあえて包括的に一語の日本語にすれば「母[はは]する」という造語となる。これには、生命を産み・育てること、「育む」こと、「守る」こと、「ケア」すること、親密な愛情を注ぐこと、母という「身体」を生きること、社会的な「母」役割を担うこと、といった多様な要素が含まれていて、それらは（一見わからないが、深層で）運動している。そうした現象のダイナミズムを、なるべく内面的に・まるごとつかみとることで、「産」と「母」をめぐってこれまでなされてきた・起こってきたことの歴史と、現在の状況、そして今後の「家族」の展望について考えてみたい。それは、少なくとも私たちがいま前提としている家族像とは異なるものとなるだろうが、そのことの意味も含めて理解することで、家族という枠組み自体を根本的に捉え直すことが可能になるだろう。  
具体的には、イギリス・アメリカなど諸外国において、  
(1) 革新的かつ自律的な「母」・「母性」規定

#### 到達目標

- (1) 授業で提示された内容を正しく把握する。
- (2) 授業内容の理解を通して、授業テーマに関する自らの問題意識を形成する。
- (3) 自らが従来無条件に前提としていた「家族/母性/育児」などに関するイメージを、批判的に相対化する。
- (4) オルタナティブかつ抵抗的な育児/ケア/コミュニティ形成の実践を、主体的（・共同的）に構想する。
- (5) 授業を通して得られた知見、それに連関する自らの問題意識、ならびに実践的な模索の内容（構想）、の3要素すべてを、自身の言葉で整理し表現できる段階に到達する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	到達目標(1)～(5)の達成度を測る論述式筆記試験を行なう。(100%)
レポート課題		
上記以外		

#### 授業外学習

授業に関する情報（授業内で扱った内容だけでなく、時間の都合で授業では触れられなかった内容も含む）は、すべて授業用Webページ（授業期間の開始と同時に作成し、公開する。授業期間中、随時更新する）に掲載する。それをこまめにチェックし、自身の興味関心にしたがって、文献を読む

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定の教科書を指定することはしない。授業で扱う文献の情報は、随時授業内で告知するとともに、授業用Webページに掲載する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

本授業の参考書（オンライン上の記事を含む）については、多数存在するため、随時授業内で告知するとともに、授業用Webページに掲載する。

#### 前提学力等

ジェンダー論・フェミニズム・社会思想史・社会運動論に関する基礎的な理解があることが望ましい。

#### 履修資格



講義名	パーソナリティ心理学						担当教員	後藤 崇志
講義コード	1403260	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

#### 授業概要

人々の持つ多様なパーソナリティ(人格)を捉え、その形成されるメカニズムを明らかにしようと、パーソナリティ心理学で行われてきた研究の方法や成果について解説する。パーソナリティの概念を扱う様々な研究アプローチについて学ぶとともに、パーソナリティの類型や特性といった考え方が、人々の生き方や社会のあり方に関する議論とどのように関わっているかを理解する。

#### 到達目標

- (1) 人のパーソナリティ概念、およびその形成過程について理解を深める。
- (2) 生き方や社会のあり方について議論するための、パーソナリティ心理学的な考え方を身に着ける。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	授業でとりあげたトピックについての課題認識およびパーソナリティ心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができているかを評価する。

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

#### 授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パーソナリティ心理学 人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード	榎本博明・堀毛一也・安藤寿康	有斐閣	978-4641123779
2	パーソナリティ心理学概論 性格理解への扉	鈴木公啓	ナカニシヤ出版	978-4779506383
3	パーソナリティ心理学 全体としての人間の理解	ミシェル, W. ショウダ, Y. アイダック, O. (著), 黒沢香・原島雅	培風館	978-4563052003

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

#### 前提学力等

「心理学基礎」を履修していることが望ましい。

#### 履修資格

講義名	パーソナリティ心理学						担当教員	後藤 崇志
講義コード	1403260	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	パーソナリティ心理学の特徴について学ぶ。
第2回	特性論・類型論	類型や特性といった概念から、パーソナリティを捉えようとする考え方について学ぶ。
第3回	パーソナリティ特性と心理尺度	パーソナリティの類型や特性を捉えるために用いられる心理尺度について学ぶ。
第4回	代表的なパーソナリティ特性	幅広く研究で参照される、代表的なパーソナリティ特性について学ぶ。
第5回	脳とパーソナリティ	神経・生理的基盤を想定したパーソナリティの考え方について学ぶ。
第6回	遺伝とパーソナリティ	パーソナリティの形成と遺伝・環境の関わりについて学ぶ。
第7回	精神力動論	精神力動論的アプローチについて学ぶ。
第8回	現象学的自己論	人間性心理学や現象学的自己論アプローチについて学ぶ。
第9回	行動・学習論	行動主義的アプローチについて学ぶ。
第10回	社会的認知論	一貫性論争に触れながら、社会的認知アプローチについて学ぶ。
第11回	パーソナリティの検査	パーソナリティを捉えようとする多様な手法について学ぶ。
第12回	パーソナリティと幸福	パーソナリティと人の幸福な生き方との関わりについて学ぶ。
第13回	パーソナリティと病理	パーソナリティと心の不調や心理臨床との関わりについて学ぶ。
第14回	社会・教育とパーソナリティ	パーソナリティの捉え方から、社会・教育のあり方について考える。
第15回	まとめ	授業の内容を振り返りつつ、人のパーソナリティについての体系的な理解を試みる。
担当者から一言		

講義名	教育課程論						担当教員	木村 裕
講義コード	1600251	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	304TEA204, 335EDU305							

#### 授業概要

教育課程の意義、歴史的展開、構造、編成方法、評価と改善のあり方、カリキュラム・マネジメントの意義などについて、文献や映像資料などを用いながら講義する。講義を通して、教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

#### 到達目標

教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得すること。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教師をめざす学びのハンドブック - 教職入門から教職実践演習まで	木村裕・篠原岳司・杉浦由香里・原未来・福井雅英	かがわ出版	
2				
3				

この講義では主に第5章を取り上げるとともに、適宜、他の章も参照する。

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	道徳教育論						担当教員	福井 雅英
講義コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	304TEA205, 335EDU306							

#### 授業概要

わが国の道徳教育実践の歴史を振り返りながら、そこで深められた理論的、実践的な問題を究明する。およその概要としては、(1)戦前日本の道徳教育、戦後初期の道徳教育民主化の動向、憲法・教育基本法下の道徳教育のありかたについて知る。、(2)道徳・道徳性の概念と道徳性の発達について考える。(3)道徳の授業実践について考え、道徳の教科書と授業のあり方、道徳の評価について理解する。

#### 到達目標

- (1) 我が国における道徳教育の歴史について理解する。
- (2) 道徳教育の目標・方法について理解する。
- (3) 道徳の指導計画や指導案を作成する。
- (4) 道徳の指導力量を形成し、評価のあり方がわかる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		毎回の授業感想レポートとまとめレポートを総合して評価する。

5回以上欠席したら評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教師をめざす学びのハンドブック	木村、篠原、杉浦、原、福井	かがわ出版	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

吉田一郎他：『子どもと学ぶ道徳教育』、その他講義中に適宜指示する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	道徳教育論						担当教員	福井 雅英
講義コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	
ナンバリング番号	304TEA205, 335EDU306							

#### 授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	戦前公教育における道徳教育 - 「教育勅語」体制について	戦前の教育における道徳の問題 - 教育勅語、修身の意味について考える。
第2回	戦後教育改革と道徳教育	日本国憲法・教育基本法と教育勅語の否定について
第3回	道徳教育の変遷と学習指導要領	学習指導要領の変遷と道徳の位置づけ
第4回	道徳教育実践の検討（１）	生活指導的道徳教育実践の例から
第5回	道徳教育実践の検討（２）	説話教材の実践例から
第6回	道徳教育実践の検討（３）	モラルジレンマ教材の実践例から
第7回	道徳教育実践の検討（４）	道徳教育の全体構造と指導計画について
第8回	道徳教育実践の検討（５）	道徳教育の指導案について
第9回	道徳教育における基本問題（１）	道徳と道徳教育の概念定義をめぐって
第10回	道徳教育における基本問題（２）	道徳性をどう考えるか
第11回	道徳教育における基本問題（３）	道徳性の発達をめぐる議論について
第12回	道徳教育における今日の問題（１）	「特別な教科」としての道徳と道徳教科書について
第13回	道徳教育における今日の問題（２）	「道徳」に関する社会的要請をどう見るか。 学校のあり方と道徳性の教育
第14回	道徳教育における今日の問題（３）	道徳教育の評価について。 授業感想の中からトピックを考える。
第15回	授業全体のふり返りとまとめ	授業で取り上げた内容を概括し、まとめレポートを作成する。

#### 担当者から一言

外部講師の都合などにより日程変更がありうる。その場合は事前に連絡する。